

独立行政法人国立博物館の平成15年度に係る業務の実績に関する評価

1. 評価の理念

国民本位の効果的で質の高い行政を実現するため、法人が現代及び未来の日本の社会にどのように貢献するかの視点に立ち、客観的な評価を行うことにより、行政の説明責任を果たし、あわせて業務の改善・活性化を図り、法人の自主性・自律性を担保する。

2. 評価の趣旨

事業年度において、中期計画の実施状況を調査・分析し、業務の実績の全体について総合的な評定を行うことにより、以降の業務運営の改善に資する。

3. 評価のプロセス

評価は、法人から事業の説明を受けヒアリングした後、各委員が書面評価した上で合議により決定した。また、資料として、実績報告書（自己点検評価を含む）、財務諸表、外部評価委員会の評価、監事会計監査人からの意見及び展覧会の図録等を使用した。

全体評価

事業活動、業務運営について、項目別評価の結果等を踏まえつつ、法人の業務の実績について記述式により評価する。また、業務全体について横断的な観点から、評価の理念である法人が現代及び未来の日本の社会にどのように貢献するかに基づき、国民的視点に立って評価する。

評価項目		評価の結果
事業活動	収集・保管	<p>平成15年度の国立博物館は、各館の目的及び基本方針に基づき、調査研究や展覧会への出品交渉など日常的な活動を通じて所有者に働きかけ、購入、寄贈、寄託により多くの貴重な文化財を外部有識者の意見を聴取するなどして収集し、各館にふさわしいコレクションの充実を図った。また、その散逸、破損、海外流出等が問題とされる中で、優れた文化財を後世へ継承するという極めて重要な役割も果たした。保管についても、より良い保管環境とするための改善が継続して行われたことにより、確実に行われたと評価できる。なお、24時間空調が行われていない施設については、保管に適切な温湿度の範囲を超えないよう、また、急激な温湿度変化が生じないように今後とも努める必要がある。保存・修復の専門的な知識を有する職員がいない館は、外部の研究者の協力を得るなどして、その強化に努めることが望ましい。</p> <p>また、修理については、緊急を要するものから計画的に実施し、保存カルテや修理データも確実に記録された。引き続き、文化財は継続的な修復が必要であることを周知しつつ、保存・修復に関するデータベースの共通規格化を検討することが望ましい。なお、文化財の取扱いについては、その知識と技術が重要であるとともに慎重さが求められることから、引き続き、職場での体験や研修を通じて、その継承に努める必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 文化財の収集は、その件数だけで評価されるものではないが、今後とも、文化財を収集しやすくするため、文化庁と連携・協力し税制問題を含めてその推進方策を検討するとともに、各館で情報交換を図りながら各館にふさわしい文化財を収集することが望ましい。</p>
	公衆への観覧	<p>国民が国立博物館に対して期待を寄せる展覧会は、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした平常展、幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、国内外に優れた文化財を鑑賞する機会を提供した地方巡回展・海外交流展など、様々な内容のものをバランス良く企画し、幅広い層が満足する展覧会を行った。また、国立博物館3館全体で目標の入館者数約134万人を大きく超える約213万人が観覧し、入館者に対するアンケート調査の結果においても、約8割から「良かった」との回答を得ている。入館者の目標については、その目標数の算出に難しい面もあったと思われるが、広報・宣伝などの自己努力の結果として、最終的に目標を大きく上回る実績結果となった。</p> <p>国立博物館は、より多くの国民を引き付けていくため、展覧会の充実以外にも館の魅力を高める方策を進めていくことが重要である。そのためには、効果的な広報を行い、観光や地域の振興に果たす役割を持つような戦略などを引き続き検討し、いままで観覧したことのない人の興味も喚起し、何度でも足を運んでもらえるような改善を図る必要がある。</p> <p>その他、文化財の活用として、公私立の博物館等に対して、その貸与や特別観覧を行い、文化財を広く国民へ公開することに貢献した。貸与については、引き続き、文化財の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の主旨を考慮しながら、できる限り幅広く応えていくことが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 展覧会場の混雑緩和については、入場制限や柔軟な開館時間の設定のほか、整理券を発行するなどその改善に力を注いだ。今後とも、整理券や期限付きの入場券の発行、他館との共通入場券の導入等を検討し、より良い観覧環境を確保するための努力を続ける必要がある。また、見やすく、わかりやすい展示や作品解説にするよう工夫するなど、展示の持つ教育普及効果に、十分配慮することが望ましい。</p>
	調査研究	<p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は確実に行われ、文化財の収集や展示に反映するとともに、図録の刊行などに成果が生かされた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。また、研究員の日常的な調査研究は、今後の収集・保管、展覧会、教育普及など博物館活動の基礎となるため、引き続き、研究成果の蓄積に努めることが望ましい。今後は、研究機関としての機能も充実していくことを期待したい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 研究成果については、国立博物館が作成する図録や研究紀要等で公開されているが、研究紀要の発行等に際しては、編集方針を併記するなど学術的に高い水準を確保することが望ましい。また、研究成果については、学会で発表するなど、広く公開していくことが望ましい。外部の研究者との交流については、今後も積極的に行い、高度な人的ネットワークを形成することが望ましい。 展覧会は、博物館が創出する知的な財産・作品であり、展覧会の図録の刊行などの出版活動の活性化等を期待したい。また、展覧会に関するデータベースの構築は、国内外の研究者に資するものであり、研究機能の成果の外部への公開が望まれる。</p>
教育普及	<p>国立博物館は、平成15年度も引き続き、年齢や職業など幅広い層を対象として、資料の公開、広報活動、講演会、ワークショップの実施、学校等との連携、友の会、ボランティアの活用など様々な教育普及活動に取り組み、年度計画以上の実績を上げた。これらの活動は、展示や解説を学術的に高い水準を維持しつつ、よりわかりやすく提示するものとして評価できる。</p> <p>また、限られた人員と予算の中で充実した教育普及活動を行うためには、引き続き、国立博物館として果たすべき役割を検討した上で全般にわたる見直しを検討することが望ましい。特に、学芸員を養成する博物館実習生の受入れについては、他の業務とのバランスを勘案の上、目的を明確にして積極的な受け入れを検討する必要がある。</p>	

	<p>【より良い事業とするための意見等】 今後とも、大学生、大学院生、ボランティア等との連携・協力の可能性について、引き続き検討していくことが望ましい。また、収蔵品及び図書などの諸資料のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。また、今後は、教育普及活動に参加した人に、博物館をどのように利用すればよいかを示唆できるよう、内容をより一層工夫することが望ましい。</p>
その他の入館者サービス	<p>入館者に楽しく過ごしてもらうためには、展覧会の質を充実していくとともに、展示以外のサービスについても、十分に配慮しなければならない。平成15年度は、アンケートの結果の分析やモニター制度の導入等により、入館者の意見も十分採り入れながら、小・中学生の平常展の観覧料金の無料化の継続、開館日・開館時間の増、レストランのメニューやミュージアムショップの商品の充実など、誰もが利用しやすく、また、快適に過ごせる時間と空間を提供することに努めたと評価する。また、入館者と直に接する受付・案内の職員や看士員、及びレストラン、ミュージアムショップ等の職員の対応は重要であり、接客についての研修について、引き続き、充実していくことが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 アンケート調査を引き続き実施するとともに、モニター制度の導入を検討するなど積極的に入館者の声を聞き、入館者が充実した時間を過ごせるよう、展覧会の企画、広報などあらゆる事業の改善にその結果を活用することが望まれる。 今までに、日本文化の理解促進に貢献してきているが、引き続き、外国人にも親しまれる博物館としての活動に力を入れていく必要がある。今後は、館へのアクセス情報等、インターネットを活用したサービスについても、より積極的な検討が望まれる。また、引き続き、バリアフリーの対応を図っていくことが望ましい。</p>
業 務 運 営	<p>国立博物館は、「国民に親しまれる博物館」を目指し、理事長、理事及び監事のトップマネジメントによる一体的で効率的かつ効果的な法人運営を行うために6つの重点項目を定め、着実にその成果をあげている。これを推進していくために、各理事が法人全体の横断的業務について明確に役割分担して責任の所在を明らかにしたことは評価できる。 また、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館のそれぞれの特徴を生かしつつ、平成13年4月に一つの独立行政法人として発足されてから、一体的な運営を行ってきているが、このような改革を進めていくためには、運営基盤の確立が求められ、運営効率を高めるとともに、独立行政法人としての特色を生かしていくことが必要である。また、国民のニーズに配慮した事業の展開、利用者が親しみの持てる企画への取組は評価できる。 平成15年度は、開館日の増や夜間開館の実施、ボランティアの活用、各種イベントの開催など、幅広い層の人々が博物館に親んでもらうための事業を積極的に行い、目標を上回る多くの人々が国立博物館の展覧会を観覧した。特に、企業等が行う各種イベントやコンサート等の開催に自館の施設を有効に活用するなど、新しい博物館の運営に積極的に取り組んでいることを評価する。 国立博物館の運営においては、トップマネジメントの果たす役割が最も重要であり、今後とも、文化財、人材、情報など国立博物館の持っている資源を最大限に活用し、各館が一体となった効率的かつ効果的な運営を行っていくことを期待する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後とも、国立博物館の館活動の支援者の育成や、地域社会との連携、施設の有効活用による収入の拡充が望まれる。また、国際文化交流には、より一層主体的に取り組んでほしい。そのためにも、トップマネジメントの果たす役割は大きいと言える。 今後は、各館の特性を活かして、ダイナミックな改革を目指していくことが望まれる。また、独立行政法人化されたことにより、引き続き、理事長及び理事がトップマネジメントとしての意識を強く持っていくことが重要である。</p>
財 務	<p>平成15年度の総利益のうち、展覧会の企画や各種のイベントの開催、広報の充実など法人としての経営努力をしたことにより、入場料収入、図録の販売等の収入を伸ばし、当初予算額に比べ3億1千4百万円増の利益をあげた。特に、平成15年度は、企業等が行う各種イベントによる施設の貸与や賛助会員制度、デジタル画像等の販売等により、引き続き、増収を図ったことは評価できる。 国立博物館が目指す効率化については、無駄な経費を節約し、できる限り小さいコストで、効果的により質の高いサービスを国民に提供するものでなければならない。平成15年度は、目標を上回る多くの人々が展覧会を観覧し、事業の充実を図るなど、より多くの経費を必要とする中で、業務全般について一元化を図ったり、省エネルギーや施設の有効利用に努力し、法人全体として1%の効率化を図ることに成功した。なお、そのことにより、必要とされる経費が増す中で、事業活動の質の低下は見られなかったことを評価したい。 平成15年度予算は、事業ごとの予算と決算に多少の差異が生じたが、平成16年度は、各事業の実績等を勘案した上で予算を作成し、コスト意識を持ちながら、柔軟かつ弾力的な執行を行い、その結果を自己点検していく必要がある。平成14年度の運営費交付金債務は、平成15年度に文化財の購入及び施設の改修として執行され、また、平成15年度は、引き続き、運営費交付金債務が生じており、平成16年度に文化財の購入及び施設の改修を行う予定である。なお、法人設立時の現物出資により生じた還付消費税は、適切に管理された。 国立博物館が安定した運営を行うためには、国からの支援と自己収入の確保が不可欠である。その他、個人や民間企業からの寄附や協賛等を得るなどの渉外活動も大切である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後とも、国立博物館は、その規模や目的に応じた活動により、国立の博物館としてふさわしい役割を果たし、社会に奉仕していることについて、国民の理解が得られるよう努力を続けていかなければならない。また、文化財の特別観覧や施設使用の料金の設定は、国有財産の使用料に準拠しているものが多く、今後、使用者やその目的などを勘案し、商業利用等については提供するサービスに見合った料金設定をするなど、独立行政法人として弾力的な取り扱いについて検討することが望ましい。</p>
人 事	<p>国立博物館は、人的資源、物的資源、情報資源などを有しているが、その活用を人が決定するという点においては、人的資源が最も重要であると言える。そのため、必要な職員の配置を図るとともに、適正な配置による効率的かつ効果的な活用が大切であり、平成15年度においては、国立博物館の限られた人員の中で適正な配置がなされたことと評価できる。また、研究職員について、法人本部で一括して採用していくことになったことは、本部機能を高める上で評価できる。 事務職員については、主として、文化庁、文部科学省、国立大学等との定期的な人事交流により、安定した人員の供給と組織の活性化がなされているが、博物館業務固有の専門分野での人材育成に困難な面がある。このため、今後は、国立博物館で独自に事務職員を採用し、博物館運営など固有の業務についての知識を習得するための研修を実施して、人材を養成していく必要がある。 なお、国立博物館として一体的な運営を目指すため、今後とも本部機能の充実を図り、各館における職員の人事交流も積極的に検討する必要がある。 平成14年度の業務の実績に関する評価結果に対する役職員の給与や人事への反映状況については、適切に行われた。また、国立博物館の役職員の給与は国家公務員に準拠した額となっているが、役職員に対しインセンティブを与えるため、功績をあげた者への評価について検討することが望ましい。</p>

	<p>【より良い事業とするための意見等】 研究職員については、文化財に関する専門的な知識とともに、独立行政法人における役割を十分理解し、館運営や広報等の博物館活動の重要性について正しい認識を持つことが必要である。そのため、経験と知識の専門性を尊重しつつ、文化庁や国立大学等との人事交流、または公私立の博物館や民間企業等からの採用についても、引き続き、積極的に行っていく必要がある。 また、業務の効率化を推進するため、外部委託を可能な範囲で進める必要がある。</p>
施設	<p>国立博物館の施設については、平成15年度は、京都国立博物館の本館の一部改修を行うとともに、九州国立博物館の建設工事が完了して、展示工事を開始したところである。この中で、全館を通じて情報の提供やバリアフリー化への対応がなされている。また、コンサート等イベントの実施により、国立博物館の施設を有効利用していると評価できる。 施設については、国立博物館の館活動の基盤であるため、業務を確実に実施するための機能を有するとともに、安全で良好な環境を維持していかなければならない。そのため、常時、施設の状況の点検等を行い、今後とも、修繕すべき施設の優先順位を法人として決定して、計画的に改修を図っていく必要がある。 なお、今後とも、国立博物館の施設については、文化財を適切に保管し、後世に伝えていくとともに、来館者が快適に過ごすことができるような施設にすべく工夫していく必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、国立博物館の各館のPRを含めて、施設の有効活用をさらに推進していくことが望ましい。また、新しく整備した九州国立博物館については、その在り方等について、さらに具体的に検討を進めていくことが望まれる。</p>
総 評	<p>国立博物館は、平成15年度においては、中期目標期間の3年目として、3館全体で目標の入館者数約134万人を大きく超える約213万人が観覧し、多くの人々が評価する展覧会を開催した。 また、少ない館職員の努力で、収集・保管、展示、調査研究、教育普及などの「国民に対して提供するサービス」、及び「業務運営の効率化」について年度計画以上の実績を上げ、特に、各種イベントやコンサート等を開催するなど、新しい博物館の運営に積極的に取り組んだ。さらには、ナショナルセンターとして国際文化交流を推進するとともに、国内外の博物館活動の充実へ大きく貢献するなど、中期目標にある「国民に親しまれる博物館」を目指して、着実な成果を上げていると評価する。 今後は、関係機関とのネットワーク化、グループ化を図り、国民共通の貴重で良質かつ豊富な文化財を守る国立博物館としての基盤の強化を図っていく必要がある。また、関係機関等とさらなる人事交流を図るとともに支援組織を確立して、国立博物館のよりよい環境づくりに努めていくことが期待される。今後は、理事長を中心としたトップマネジメントの中で、国立博物館ならではの運営のビジョンを明確に示し、強力なリーダーシップを発揮していくことが望ましい。</p>

項目別評価

中期計画の各項目ごとに段階的評価を行う。

段階的評価

- 「A」 中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。
- 「B」 中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。
- 「C」 中期計画を十分には履行しておらず、中期目標達成のためには業務の改善が必要。
- 「-」 評価しない。

定量的評価

評価を出すに至った背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性等を記述する。

【東京国立博物館】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のOA化の推進</p> <p>(6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>1 (1) 業務の一元化(本部)</p> <p>1 業務の効率化</p> <p>(1) 省エネルギー等(リサイクル) (本部及び東京国立博物館)</p> <p>電気 使用量8,054,960kwh (前年度比102.94%) 料金 125,551,932円</p> <p>水道 使用量 52,644m₃ (前年度比102.28%) 料金 42,694,214円</p> <p>ガス 使用量 853,180m (前年度比 98.95%) 料金 41,033,112円</p> <p>紙の使用量 11,658kg (前年度比189.41%)</p> <p>廃棄物(一般) 120,570kg (前年度比105.25%)</p> <p>(産廃) 29,360kg (前年度比105.73%)</p> <p>(2) 施設の有効利用</p> <p>講堂等の利用 351件 (有償貸付66件)、茶室の利用 221件 (有償貸付54件)</p> <p>イベント等の施設利用 22件</p> <p>(3) 外部委託の推進</p> <p>庭園開放期間の茶室清掃業務を、新規に台東区シルバー人材センターへ委託した。</p> <p>また、西門の警備や「煌きのダイヤモンド」展開期間の敷地内特別警備を全面的に警備会社に委託するなど警備面において外部委託を推進し、経費削減を図った。</p> <p>(4) OA化の推進</p> <p>館内LANの端末パソコン、サーバー等の一部を更新した。</p> <p>(5) 一般競争入札の推進</p> <p>一般競争入札件数 10件(契約金額 200万円以上) (前年比±0件)</p> <p>2 事業評価の実施及び職員の意識改善</p> <p>(1) 評議員会、運営会議</p> <p>開催回数 評議員会2回 運営会議22回</p> <p>(2) 研修の実施</p> <p>東京国立博物館主催の研修の実施</p> <p>「服務講習会」「接遇研修会」「救急救命講習会」</p> <p>東京国立博物館の日の講演会法人本部が主催する研修への参加</p> <p>「新任職員研修会」「文化財の生物被害防除に関する研修会」「美術品の梱包に関する研修会」「危機管理に関する研修会」「職員啓発研修会(放送大学授業科目履修)」</p>	A	<p>東京国立博物館については、多くの人々が展覧会を観覧し、事業の一層の充実を図るなど、より多くの経費を必要とする中で、業務全般について一元化や省エネルギーに努力して、その結果として1%の効率化を図った。</p> <p>特に、講堂、茶室等の施設の有効利用に積極的に取り組んだことは評価できる。</p> <p>今後も、博物館本来の業務に支障を来たさない程度に効率化を図る必要がある。</p> <p>外部委託については、必要な業務を精選する中で、順調に行っている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>外部委託の推進にあたっては、貴重な文化財を管理・公開する施設であることに留意しつつ、ボランティアを活用していくことが望ましい。</p>
		<p>効率化の達成率 (本部・九博(仮称)準備室含む)</p>	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満		1.0%未満	<p>1.0%</p> <p>算式 効率化率 = (見積予算額 - 決算額) ÷ 見積予算額</p> <p>= [(予算額 ÷ 0.99) - 決算額] ÷ (予算額 ÷ 0.99)</p> <p>= [(2,857,132,840 ÷ 0.99) - 2,857,132,840] ÷ (2,857,132,840 ÷ 0.99) = 0.0100</p> <p>運営費交付金予算額 2,857,132,840円、効率化した額 28,859,928円</p>

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見</p>	<p>文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>(1) 購入 25件(重要文化財2件)</p> <p>(2) 寄贈 2,527件(重要美術品1件)</p>	A	<p>東京国立博物館の収集方針に基づき、重要文化財「雪景山水図」をはじめとして幅広く文化財を収集し、着実にコレクションの充実を図った。</p>

<p>等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(東京国立博物館) 日本を中心に広く東洋諸地域にわたる美術及び考古資料等を収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>	<p>寄託件数</p>	<p>2,400件以上</p>	<p>1,680件以上 2,400件未満</p>	<p>1,680件未満</p>	<p>(3) 寄託 2,447件(国宝65件、重要文化財323件)</p> <p>2,447件</p>	<p>A</p>	<p>特に、独立行政法人制度のメリットを生かし、購入や寄贈で高い成果を上げた。また、寄託についても、博物館への高い信頼によって大きな成果を上げた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 寄贈・寄託の拡大のために、文化庁と連携して、税制上の改善が望まれる。</p>
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>500件以上</p>	<p>350件以上 500件未満</p>	<p>(1) 保存体制の整備・充実 収蔵品管理に関して旧学芸部各課室の管理から新体制の文化財部列品課による一括管理への移行を終了し、各収蔵庫の保安、環境等について管理の適切化を図った。文化財部各課が協力し、旧学芸部各課室と旧企画部列品課が作成していた個別の列品運用に関するデータを統合し、展示、貸与、特別観覧、修理などに供される作品の運用データベース作成を検討した。その結果、日本美術、日本工芸の分野について試行版を作成することができた。</p> <p>(2) 保存・展示環境に関する調査 適切な保存・展示環境の確保維持を図るため以下のような計測を実施した。</p> <p>A 温湿度 温湿度のモニター(毛髪温湿度計53台、温湿度データロガー75台)を各所に設置し、徹底した環境モニタリングと測定データの解析によって環境の変動を把握し、合わせて、空調機械制御用の温湿度データについても127箇所に関して保存的な観点から注視を行った。</p> <p>B 虫害 年間に1度、全館的に生物生息調査を実施し、有害生物の生息分布に関して把握するよう努め、必要に応じた処置を適切に実施した。</p> <p>C 照明 作品の材質毎に最大照度の設定を行った。照明器具は、基本的には紫外線をカットした博物館用照明器具を使用している。表慶館展示室のように外光が入射する場合は、窓ガラスに紫外線カットフィルムを貼り付けて適切に対応した。</p> <p>D 空気汚染 展示室、収蔵庫それぞれにフィルターを設置し、フィルターを経由した空気が送風されることにより汚染空気の流入を予防した。</p> <p>収蔵庫・展示室における温湿度環境に関する年次報告を整備した。 電子的に記録した温湿度データをグラフ化し、解析した結果とそれに対する評価を本館、東洋館、法隆寺宝物館、平成館、考古仮設収蔵庫、表慶館、資料館についてそれぞれまとめた。</p> <p>(3) 防災・防犯 警報装置、消火装置として、本館、平成館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館の展示室、収蔵庫等各施設に、それぞれ熱感知器、煙感知器、消火器、消火栓を設置した。各所に防犯装置を設置した。上野消防署との合同消防訓練を実施した。法人本部で実施した「危機管理に関する研修会」やシンポジウム「美術館・博物館のリスクマ・ネジメントを考える」に参加した。</p> <p>(4) 保存カルテの作成 作成件数2,846件(うち列品貸与時:638件、本格修理時:171件、応急修理時:2,037件)</p> <p>2,846件</p>	<p>A</p>	<p>保存・修復の専門的な知識を持つ職員を配置し、温湿度や照明などに配慮した適正な保管が行われている。また、保存カルテ作成も的確に実施されている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、収蔵品に関する本格的なデータベースを作成し、効率化を図っていくことが望ましい。</p>
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。長期寄託品等の修理を実施する。伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。</p> <p>(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>130件以上</p>	<p>91件以上 130件未満</p>	<p>(1) 修理 171件 修理件数 本格修理171件(うち九博修理53件 考古相互活用17件) 長期寄託品、文化庁経費による金銅両界曼荼羅1具(重要文化財、茨城県・徳満寺)の修理を開始し、(財)住友財団助成による『方格規矩四神鏡』(個人所蔵)の修理を終了した。</p> <p>(2) 修理事業についての公表 保存修復事業の活動を多くの人に理解してもらうため、特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」(会場 本館特別第3・4室、会期9月9日～10月19日)を開催し、平成14年度に修理をした作品を公開した。合わせて、保存と修理を平易に解説した『ミュージアムサイエンス2003』(vol.2)を刊行した。</p> <p>保存修復関係資料のデータベースを194件作成した。 修理報告書『平成14年度 東京国立博物館文化財修理報告』を刊行した。 また、修理報告書のデジタル化を終え、デジタルデータ629件の蓄積を行った。</p> <p>(3) その他 修理に関連して国内外の博物館等・修理業者への指導助言を行った。</p> <p>194件</p>	<p>A</p>	<p>組織改革の中で、保存・修復の専門的な知識を持つ職員の配置を充実し、緊急を要するものから中期的な計画を作成して、計画的に修理業者を指導しながら修理を行った。また、修理データも確実に記録した。</p> <p>また、修理作品の公表をした特別展示「東京国立博物館コレクションの保存と修理」、保存修理を平易に解説した「ミュージアムサイエンス」は評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 文化財は継続的に修復する必要があることを周知することが望ましい。保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、各館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>

	修理件数(寄託品を含む)	130件以上	91件以上130件未満	91件未満	171件	A	
<p>2 公衆への観覧</p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p>(東京国立博物館) 年3～5回程度</p> <p>(京都国立博物館) 年2～3回程度</p> <p>(奈良国立博物館) 年2～3回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度)</p> <p>(1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度)</p> <p>なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>展覧会の状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>770,000人以上</p>	<p>539,000人以上 770,000人未満</p>	<p>539,000人未満</p>	<p>総入館者数 119万6,408人(目標 77万人)</p> <p>(1) 常設展 開館期間 15年4月1日～16年3月31日(297日間 常設展のみの開催期間 89日間) 陳列品総件数 9,147件 陳列替回数 述べ 330回 日本美術が一望できる時代順の展示「日本美術の流れ」リニューアルオープン(7月1日～) 特集陳列等 43件(江戸開府400年記念「幕府と町人」、特別公開「国宝 松林図屏風」ほか)</p> <p>(2) 特別展・共催展 8回 ・「西本願寺展 御影堂平成大修復事業記念」 ・「建長寺創建750年記念「鎌倉 禅の源流」」 ・「アレクサンドロス大王と東西文明の交流展」 ・「煌きのダイヤモンド ヨーロッパの宝飾400年」 ・「江戸開府400年記念特別展「伊能忠敬と日本図」」 ・「国宝 大徳寺聚光院の襷絵」 ・「亀山法皇700年御忌記念特別展「南禅寺」」 ・「ドイツ国立芸術展覧会ホール開催「日本の美 日本の心」帰国展」</p> <p>(3) 海外交流展 2回 東京国立博物館蔵「西川寧書法芸術展」(会場：中華人民共和国上海博物館) 東京国立博物館名品展「日本の美 日本の心」(Soul and Beauty of Japan)(会場：ドイツ国立芸術展覧会ホール)</p> <p>(4) 地方巡回展 2回 「国宝 その美とところ」(会場：紋別市立博物館) 東京国立博物館所蔵琉球資料展「琉球・沖縄へのまなざし」(会場：浦添市美術館)</p>	<p>A</p>	<p>東京国立博物館の11万件の収蔵品を5つの施設で展示した大規模な常設展、「伊能忠敬と日本図」など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、地方にも優れた美術作品を鑑賞する機会を与えた地方巡回展など様々な内容のものをバランス良く行った。また、目標の入館者数約77万人を超える約120万人が観覧した。</p>
	<p>入館者数</p>	<p>770,000人以上</p>	<p>539,000人以上 770,000人未満</p>	<p>539,000人未満</p>	<p>119万6,408人</p> <p>(1) 常設展に関する企画立案の効率化 15年度は常設展の活性化を図るため、新設された文化財部展示課が中心となり、年度当初に常設展全体の年間計画を立案し、本館、東洋館、平成館、法隆寺宝物館それぞれにおいて、企画性のある様々なテーマの展示を実施した。 陳列品総件数 9,147件(うち国宝 160件、重要文化財 1,199件)、陳列替回数 330回</p> <p>(2) 本館常設展示のリニューアル 本館2階を分野別展示ではなく、日本美術が一望できる時代順の展示とする大幅なリニューアルを実施し日本美術の展示を一新させた。 本館1階第10室をリニューアルして新たに現代の伝統工芸品の展示コーナーを開設した。</p> <p>(3) 特集陳列・特別公開等の実施(全43件) 東京国立博物館の名品として著名な作品、あるいは東京国立博物館に寄託されている名品の展示について、年間予定を明らかにして展示した。すなわち、従来、好評であった国宝室の展示については、7月のリニューアル以降も継続するとともに、公開の希望の強い名品の特別公開を新たに企画し、特別一挙公開「北斎の富嶽三十六景」、特別公開「国宝 松林図」などの企画展示を実施した。 江戸開府400年という記念の年にあたることから、江戸の風景・暮らし・文化・社会など様々な側面から江戸にせまる「幕府と町人」シリーズを企画し、それに関する特集陳列を9件実施した。 本館において「平成14年度新収品」、「江戸と桃山の陶磁」、「東京国立博物館コレクションの保存と修理 -平成14年度修理作品」、東洋館において中国・宋元時代の中国書画の名品を集める「中国書画精華」、「広開土王碑」など様々な分野にわたる特集陳列を実施した。 正月2日からの開館に合わせて、干支にちなんだ特集陳列「申・猿・さる」を行い、伝毛松筆「猿図」(重要文化財)等の名品を展示した。 この企画は、14年度より実施した「博物館に初もうで」に続く第2弾で、本年度は申年にちなむ猿回し、獅子舞、和太鼓演奏、琴演奏、本館・東洋館・法隆寺宝物館等を会場とする生け花(池坊流)を実施し、新春の総合的企画とした。</p> <p>(4) 広報の充実 15年度はリニューアルや数々の企画展示に向けて、常設展の広報活動にも力を入れた。リニューアルについては、ニュースでは「日本美術の流れをつかめ!」と題し大きく取り上げたほか、特別公開や特集陳列のチラシやパンフレットを作成・配布した。また、特別展会場出口(平成館1階ロビー)等に、展示作品の写真つき案内板を設置するなどして常設展への関心を促した。</p>	<p>A</p>	<p>東京国立博物館の方針に基づいて体系的に収集した約11万件の収蔵品(寄託を含む)から、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして本館・東洋館・法隆寺宝物館・平成館・表慶館で展示した。特に本館における展示は日本美術が一望できる時代順の展示へと大幅なリニューアルが行われたことで、より充実した展示になった。また、入館者に楽しんでもらえるよう330回もの展示替えや様々なテーマによる特集展示を行うなど工夫をこらし、入館者数を着実に増やした。今後とも、多くの国民に展示を観覧してもらえよう、効果的な広報を検討することが望ましい。</p>
	<p>共催展 「西本願寺展 御影堂平成大修復事業記念」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>			<p>(1) 開会期間 15年3月25日～5月5日(38日間) (2) 会場 平成館2階 特別展示室第1室～第4室 (3) 共催 浄土真宗本願寺派・NHK・NHKプロモーション (4) 陳列品総件数 126件(うち国宝8件、重要文化財28件、重要美術品4件)</p>	<p>A</p>	<p>西本願寺御影堂の平成の大修復事業を記念して行われた展示で、内容の充実したものであった。これまで西本願寺の文化財が東京でまとめて展示されたことは</p>

				(5) 入場料金 大人1,400円 高校・大学生900円 小・中学生400円 (6) 展覧会の内容 諸堂を飾る障壁画をはじめとする絵画及び書跡、工芸など各分野にわたる西本願寺所蔵品と、同寺に関連のある名品を合わせて120件余りを一堂に展示し、西本願寺の歴史と美術を広く紹介した。 (7) 講演会等 2回 参加者数1279人 (8) アンケート 回収数579件 アンケート結果 とても良い44.9%、良い38.8%、ふつう10.0%、あまり良くない2.6%、良くない1.6%、無回答2.1%		なく、特に「本願寺本三十六人家集」の展示は注目される。目標を大きく上回る観覧者があり、アンケートも84%が良いと回答している。
入館者数	100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	15万8,925人	A	
共催展 建長寺創建750年 記念 「鎌倉一禅の源流」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年6月3日～7月13日(36日間) (2) 会場 平成館2階 特別展示室第1室～第4室 (3) 共催 日本経済新聞社 (4) 陳列品総件数 159件(うち国宝8件、重要文化財82件、重要美術品7件) (5) 入場料金 大人1,300円 高校・大学生900円 小・中学生400円 (6) 展覧会の内容 建長寺・円覚寺等の鎌倉寺院をはじめ、京都の禅宗寺院及び関連機関に所蔵される文化財159件により、鎌倉を中心とした禅文化の全体像を展観した。 (7) 講演会等4回 参加者数2,123人 (8) アンケート 回収数2,837件 アンケート結果 とても良い44.8%、良い42.3%、ふつう8.4%、あまり良くない1.8%、良くない1.4%、無回答1.3%	A	建長寺創建750年を記念して、鎌倉を中心とした禅文化を紹介する展示で、充実した内容であった。入館者は目標をわずかではあるが上回り、アンケートでは87%が良かったと回答している。
入館者数	100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	10万1,613人	A	
共催展 「アレクサンドロス大王と東西文明の交流展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年8月5日～10月5日(57日間) (2) 会場 平成館2階 特別展示室第1室～第4室 (3) 共催 NHK・NHKプロモーション・読売新聞社 (4) 陳列品総件数 172件(うち重要文化財6件) (5) 入場料金 大人1,300円 高校・大学生900円 小・中学生400円 (6) 展覧会の内容 世界有数の美術館、博物館、日本の寺院・個人等が所蔵する名品170件余りを一堂に集め、東西の古代文明が融合を重ねる様を概観し、その余波がシルクロードを経て遥か東方の日本まで到達したことを示した。 (7) 講演会等 2回 参加者数644人 (8) アンケート 回収数5,841件 アンケート結果 とても良い40.9%、良い39.1%、ふつう10.3%、あまり良くない2.7%、良くない2.6%、無回答4.4%	A	アレクサンドロス大王の東征を契機とするギリシャ美術の東方への伝播と受容の過程をたどり、同文明が極東日本まで影響をもたらしたことを展示したもので、企画としても国立博物館にふさわしいものであった。入館者数も目標を大きく上回り、アンケートも80%が良いと回答している。 【より良い事業とするための意見等】 入館者数が多い展覧会では整理券を発行するなどの対応をすることが望ましい。 図録編集には見やすい工夫を心がけることが望ましい
入館者数	130,000人以上	91,000人以上 130,000人未満	91,000人未満	23万4,645人	A	
共催展 「煌めきのダイヤモンドーヨーロッパの宝飾400年」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年10月7日～12月21日(66日間) (2) 会場 表慶館1階・2階 (3) 共催 TBS・朝日新聞社 (4) 陳列品総件数 212件(うち ジュエリー196件、油彩画9件、デッサン7件) (5) 入場料金 大人1,200円 高校・大学生800円 小・中学生400円 (6) 展覧会の内容 16世紀から20世紀までのダイヤモンドジュエリーの歴史を、加工の技術やカットの歴史、またジュエリーの様式とモチーフの流行の移り変わりなどに注目しながら、210件余りの宝飾品等により、紹介した。 (7) 講演会等 3回 参加者数250人 (8) アンケート 回収数2,542件 アンケート結果 とても良い50.1%、良い36.3%、ふつう6.8%、あまり良くない1.7%、良くない0.9%、無回答4.2%	A	ベルギー・アントワープ州立ダイヤモンドミュージアムの収蔵品をはじめ、ヨーロッパの代表的な作品を展示しており、新たな試みとして評価できる。入館者の40%が初めての来館であるなど新たな観客層が多かった点でも評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 さらに多彩な展覧会の企画を検討することが望ましい。
入館者数	100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	12万1,989人	A	
企画展 江戸開府400年 記念特別展「伊能忠敬と日本図」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年10月31日～12月14日(39日間) (2) 会場 平成館2階特別展示室第1室～第2室 (3) 主催 東京国立博物館 (4) 陳列品総件数 42件(うち 重要文化財12件) (5) 入場料金 大人420円 高校・大学生130円 小・中学生 無料 (6) 展覧会の内容 江戸開府400年にあたり、公開の機会の少ない当館蔵の伊能図を一堂に展示するとともに、鎌倉時代から江戸時代に至る日本図を多数出品し、伊能図の持つ精細さ・美しさと日本をめぐる「地図の文化」を紹介した。 (7) 講演会等 2回 参加者数211人 (8) アンケート 回収数1,361件 アンケート結果 とても良い53.5%、良い34.3%、ふつう5.8%、あまり良くない0.8%、良くない0.7%、無回答4.9%	A	江戸開府400年記念として、初めて大規模に展示を行ったものであり、内容、展示方法とも優れている。入場者も目標の6倍以上の約13万人があり、アンケートに「良い」と答えた割合も88%であった。 【より良い事業とするための意見等】 小・中・高等学校に対する広報に力を入れ、教育的な面へのより一層の対応を心がけることが望ましい。

入館者数	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人 未満	13万2,558人	A	
共催展 「国宝 大徳寺 聚光院の襖絵」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年10月31日～12月14日(39日間) (2) 会場 平成館2階第3室～第4室 (3) 共催 大徳寺聚光院・NHK・NHKプロモーション・日本経済新聞社 (4) 陳列品総件数 26件(うち 国宝1件、重要文化財3件、特別出品2件) (5) 入場料金 大人1,300円 高校・大学生800円 小・中学生300円 (6) 展覧会の内容 戦国時代の武将・三好長慶の菩提を弔うために永禄9年(1566)に創建された聚光院の方丈障壁画を中心に、ここを菩提寺とした三千家に伝わる利休関係の遺品などを合わせて展示し、聚光院が文化史上に果たした役割を紹介した。 (7) 講演会等 3回 参加者数2,604人 (8) アンケート 回収数1,914件 アンケート結果 とても良い54.8%、良い32.8%、ふつう6.1% あまり良くない1.2%、良くない10.7%、無回答4.4%	A	普段は非公開の襖絵46面の全点を展示した良い企画であった。入館者の目標の3倍近い入館者があり、アンケートでも88%が良かったと回答している。 【より良い事業とするための意見等】 展示作品のための適切な環境作りは不可欠であるが、観覧者にそのことへの理解を求める働きかけをすることが望ましい。
入館者数	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人 未満	14万5,936人	A	
共催展 亀山法王700年御 忌記念特別展「南 禅寺」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 16年1月20日～2月29日(36日間) (2) 会場 平成館2階特別展示室第1室～第2室 (3) 共催 大本山南禅寺・朝日新聞社 (4) 陳列品総件数 114件(うち 国宝3件、重要文化財42件、重要美術品1件) (5) 入場料金 大人1,200円 高校・大学生800円 小・中学生400円 (6) 展覧会の内容 南禅寺創立を発願した亀山法皇の700年御忌を記念し、南禅寺全山の協力を得て、南禅寺の本坊・塔頭が所蔵する多数の貴重な寺宝を公開した。鎌倉時代から江戸時代にわたる多種多様なすぐれた美術品、歴史資料ならびに中国から渡来した唐物など、ふだんは公開されない作品を一室に展示し、南禅寺で育まれた禅林文化の奥深さを紹介した。 (7) 講演会等 3回 参加者数1,239人 (8) アンケート 回収数803件 アンケート結果 とても良い34.5%、良い46.5%、ふつう12.2% あまり良くない1.7%、良くない10.4%、無回答4.7%	A	南禅寺を創建した亀山法皇700年御忌を記念して南禅寺の代表的な寺宝を公開したもので、普段は非公開の作品も多く、見応えのある展示であった。入館者も目標の2倍あり、アンケートでも81%が良かったと答えている。
入館者数	60,000人以上	42,000人以上 60,000人未満	42,000人 未満	12万0,806人	A	
帰国展 ドイツ国立芸 術展覧会ホール 開催「日本の美 日本の心」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 16年1月27日～3月7日(35日間) (期 1月27日～2月15日、2期 2月18日～3月7日) (2) 会場 平成館2階特別第3室～第4室 (3) 共催 NHK (4) 陳列品総件数 70件(うち 国宝3件 重要文化財11件 重要美術品2件) (5) 入場料金 大人420円 大学生130円 小・中学生・高校生 無料 (6) 展覧会の内容 第一期では、武士の装いと生活・書院・能楽、第二期では、京都文化を担った人々・茶の湯・琳派と、ポンの展覧会場の構成にしたがう陳列とした。また、ポンのカタログ、オープニングや陳列の様子を併せて紹介した。 (7) 講演会等 なし (8) アンケート 回収数807件 アンケート結果 とても良い30.0%、良い42.1%、ふつう13.8% あまり良くない2.9%、良くない1.9%、無回答9.4%	A	ドイツで行われた東京国立博物館日本美術名品展「日本の美 日本の心」の帰国展。海外での展示を日本でも行ったことは評価される。
入館者数				9万9,899人	-	
海外交流展 東京国立博物 館蔵「西川寧書 法芸術展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年3月28日～5月5日 (2) 会場 中華人民共和国上海博物館 (3) 共催 上海博物館・謙慎書道会 (4) 陳列品総件数 77件 (5) 入場料 20元(280円) (6) 展覧会の内容 西川寧の代表作77件を展示し、その足跡をたどりながら、西川寧が目指し、表現した書の世界を中国において紹介する。	A	海外に日本の優れた文化財を紹介するものとして有効であった。 【より良い事業とするための意見等】 海外での評価を収集し、日本国内で積極的に公表することが望ましい。
入館者数				4万1,012人	-	
海外交流展 東京国立博物 館名品展「日本の 美日本の心」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年8月29日～10月26日 (2) 会場 ドイツ国立芸術展覧会ホール (3) 主催 東京国立博物館・ドイツ国立芸術展覧会ホール 共催 NHK (4) 陳列品総件数 117件(うち 国宝3件、重要文化財19件、重要美術品5件) (5) 入場料 7ユーロ(約920円) 1日入場券：館内の他の施設も観覧可能	A	海外に日本の優れた文化財を紹介するものとして有効であった。 【より良い事業とするための意見等】 海外での評価を収集し、日本国内で積極的に公表することが望ましい。

			<p>(6) 展覧会の内容 書院, 茶の湯, 能楽, 武士の装いと生活, 京都文化を担った人々, 琳派という6つのテーマに分けて室町時代から江戸時代の絵画, 書跡, 彫刻, 工芸品を展示し, 日本美術の特質を展覧した。</p> <p>(7) アンケート 回収数 1,026件 アンケート結果 とても良い38.1%, 良い43.8%, ふつう10.1%, あまり良くない1.9%, 良くない1.4%, 無回答4.7%</p>		
	<p>地方巡回展 独立行政法人国立博物館巡回展「国宝 その美とところ」</p> <p>琉球資料展「琉球・沖縄へのまなざし」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ, 各委員の協議により, 評定を決定する。</p>	<p>独立行政法人国立博物館巡回展「国宝 その美とところ」</p> <p>(1) 開会期間 15年10月4日~11月3日(27日間) (2) 会場 紋別市立博物館 (3) 共催 紋別市博物館 (4) 陳列品総件数 28件(うち 国宝1件 重要文化財2件) (5) 入館者数 5,131人 (6) 入場料 無料 (7) 展覧会の内容 東京国立博物館が所蔵する美術工芸品の中から, 鎌倉から江戸時代までの優品28件を展示し, 日本の伝統的な美意識に身近に接する機会とした。</p> <p>(8) 講演会等 1回 参加者数37人 (9) アンケート 一般:回収数333件 アンケート結果 とても良い43.4%, 良い38.8%, ふつう5.8%, あまり良くない0.6%, 良くない1.2%, 無回答10.2%</p> <p>小・中学生:回収数145件 アンケート結果 おもしろい71.4%, ふつう25.2%, おもしろくない1.4%, 無回答2.0%</p> <p>琉球資料展「琉球・沖縄へのまなざし」</p> <p>(1) 開会期間 15年12月13日~16年1月18日(30日間) (2) 会場 浦添市美術館 (3) 主催 東京国立博物館・浦添市美術館 共催 琉球新聞社・浦添市立図書館沖縄学研究室 (4) 陳列品総件数 132件 (5) 入館者数 5,200人 (6) 入場料金 一般500円, 大学生400円, 小・中学生200円 (7) 展覧会の内容 東京国立博物館が所蔵する琉球資料の中から, 古文書, 金工品, 陶磁器, 漆工品, 染織品, 古写真など, 132件の優品を展示することで, 琉球・沖縄文化への理解を深めるための大きな機会とした。</p> <p>(8) アンケート 一般:回収数35件 アンケート結果 とても良い42.9%, 良い31.4%, ふつう17.1%, あまり良くない0.0%, 良くない0.0%, 無回答8.6%</p> <p>小・中学生:回収数82件 アンケート結果 おもしろい63.9%, ふつう28.9%, おもしろくない2.4%, 無回答4.8%</p>	<p>B</p>	<p>地方においても国立博物館の優れた文化財を観覧する機会を提供した。また, 開催館の要望を尊重したことも評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も, 開催館の要望にできるだけ応え開催館の研究者と協力して質の高い展覧会を開催することが望ましい。</p>
	<p>貸与・特別観覧の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ, 各委員の協議により, 評定を決定する。</p>	<p>(1) 貸与・特別観覧 貸与 963件 特別観覧 2,469件 貸与の際, 貸与先の博物館施設等の保存環境問題に関して, 保存修復課が必要に応じて指導助言を行った。(26館)</p> <p>(2) 考古相互貸与 貸与 50件 借用 21件</p>	<p>B</p>	<p>公私立の博物館等からの要望等に対して応えるものなので, 必ずしもその数をもって評価の対象にはなじまないが, 広く文化財の貸与や特別観覧を行い, 広く国民へ文化財を公開することに貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 東京国立博物館における文化財の保管状態や展示計画等に留意しつつ, 貸与要望の主旨を考慮しながら, 貸与に対する組織体制を確認し, 今後とも幅広く応えることが望ましい。 また, 国有財産の使用料に準拠している特別観覧の料金について, 利用者やその目的等を勘案して, 商業利用等については, 提供するサービスに見合った適切な使用料を検討していくことが望ましい。</p>
<p>3 調査研究 (1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示, 教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ, 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ, 次に掲げる各館の方針に従い, 調査研究を積極的に実施する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ, 各委員の協議により, 評定を決定する。</p>	<p>(1)-1 1 収蔵品の調査研究</p> <p>(1) 法隆寺献納宝物に関する調査研究 (2) 歴史資料等に関する調査研究 (3) 九州国立博物館(仮称)常設展示のための調査研究 (4) 「博物館資料に関する情報記述及び共通検索の標準化に関する調査研究」</p>	<p>A</p>	<p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に行われ, 文化財の収集, 展覧会及び図録の刊行等に成果を上げた。 その他にも, 科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により, 充実した調査研究が行われた。 特に, 法隆寺献納宝物の調査研究について評価する。</p>

(東京国立博物館)

日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。

法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。

館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。

(京都国立博物館)

京都文化を中心にした文化財の調査研究を計画的に実施する。

神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。

修復文化財に関する調査研究を実施

(奈良国立博物館)

南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。

仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。

(1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。

(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

客員研究員招聘人数	18人以上	13人以上 18人未満	13人 未満	19人	A
海外研究者招聘人数	10人以上	7人以上 10人未満	7人 未満	14人	A
研究員派遣	2人以上	1人	1人 未満	11人	A
研究誌(MUSEUMの発行)	6回	4回以上 6回未満	4回 未満	6回	A

4 教育普及

(1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

(1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。

(3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。

(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。

また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、3館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。

(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。

また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

博物館に関する情報の収集及び公開の状況

法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。

(1) - 1 資料の収集及び公開

(1) 収集 件数 写真原板：8,515枚 図書：6,106冊 マイクロフィルム：8巻

(2) 公開

公開場所 資料館(1階閲覧室)
公開件数 利用者数 4,374人 閉架図書閲覧 2,773件
古文献資料等のマイクロフィルムによる閲覧：366件
その他 15年度に改訂した東京国立博物館ウェブサイト(ホームページ)のトップページに「図書・写真の利用」の項目を設定した。

(5) - 1 広報活動の状況

(1) 広報印刷物

「東京国立博物館ニュース」(発行回数 6回 発行部数 各3万部)
その他の広報印刷物
「東京国立博物館パンフレット」日本語版、多言語版(英語・独語・仏語・中国語・韓国語・スペイン語)
「本館フロアガイド 日本語版・英語版」、「東洋館フロアガイド 日本語版・英語版」
「江戸開府400年記念 特別展・特集陳列 パンフレット」
「2004.4 - 2005.3 東京国立博物館 展示・催しのご案内」(年間スケジュール)
「庭園散策マップ」、「東京国立博物館概要」

(5) - 2 ホームページのアクセス件数

使用者のニーズに即したより分かりやすい、親しみのあるウェブサイト(ホームページ)へのリニューアル図った。アクセス件数200万1,279件

(1) - 2 デジタル化の状況

(2) 文化財の画像情報のデジタル化及び基本情報のデータ化

・収蔵品等の写真の高精細デジタル化：2万枚(目標2万枚)
・収蔵品の基本情報のデータ化・文書記述言語(SGML化)：384万7,179字(目標350万字)

(5) - 3 デジタル情報の有料提供

デジタル情報の有料提供については(6) - 2 渉外活動参照

【より良い事業とするための意見等】

調査によって得られた結果は、データベース化して資料として積極的に公開し、学会等にも発表していくことが望ましい。今後は、海外の研究者との交流も積極的に進めていくことが望ましい。

A

資料の収集・公開、各種広報誌の一層の充実、収蔵品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。
電子メールサービス、TNMイメージアーカイブ等のサービスの向上を図った。
また、館のホームページは、展覧会の情報等について視覚的にも充実を図り、アクセス件数を伸ばした。
東京国立博物館の全ての国宝を高精細画像でデジタル化し、館内及びホームページで公開した。引き続きの取組を期待したい。

【より良い事業とするための意見等】

より多くの国民が東京国立博物館を利用するように、館の広報を積極的に行っていくことが望ましい。
収蔵品のデジタル化やその公開について、より一層の取組が望まれる。また、将来的には、国立博物館の図書室はNACSIS 図書館所蔵検索システムへの参加を図ることが望ましい。
HPのデザイン・内容は国立博物館各館で連携をはかるなど改善を行うことが望ましい。

	情報及び資料の収集	3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	8,515件	A			
	出版件数	6回以上	4回以上 6回未満	4回未満	6回	A			
	収藏品等のデジタル化件数	20,000枚以上	14,000枚以上 20,000枚未満	14,000枚未満	2万枚	A			
	画像	3,500,000字以上	2,450,000字以上 3,500,000字未満	2,450,000字未満	384万7,179字	A			
	ホームページのアクセス件数	783,320件以上	548,324件以上 783,320件未満	548,324件未満	200万1,279件	A			
<p>(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(東京国立博物館) 児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。</p> <p>中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受入れを実施する。</p> <p>(京都国立博物館) 小中学生学習プログラム等について検討、実施する。</p> <p>(奈良国立博物館) 親と子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。</p> <p>修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。</p> <p>(3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p> <p>(3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(2) - 1 児童生徒を対象とした事業</p> <p>(1) 「こどもミュージアム」3件(3テーマ)</p> <p>(2) 児童・生徒を対象とした美術鑑賞講座 9回(4テーマ)</p> <p>(3) 児童・生徒を対象とした美術体験講座 10回(4テーマ)</p> <p>(4) 小・中・高校生を対象とした体験プログラムの実施(児童・生徒ボランティア) (参加者数 小学生10人 中学生36人 高校生35人 担当研究員数 延べ4人)</p> <p>(5) 学校教育との連携 教員研修 参加者数 13人(12校) 特別展教員説明会・内見会 2回 計209人</p> <p>(6) その他 児童・生徒を対象としたボランティアによる解説及びツアー 法隆寺宝物館ワークシート(小学校高学年～中学生向け)の作成・配布 総合的な学習等の小・中・高の授業の見学対応</p> <p>(3) - 1 講演会等の事業</p> <p>(1) 講演会 33回 月例講演会 21回(参加者総数 3,988人) 記念講演会 12回(参加者総数 4,379人)</p> <p>(2) 秋期講座(夏期講座) 2日 参加者数 211人</p> <p>(3) 公開講座 12回(4テーマ)</p> <p>(4) 列品解説(美術鑑賞講座) 43回(総参加者数3,581人)</p> <p>(5) 展示に関連する事業 特別展「鎌倉禅の源流」パントマイム公演(236人)、茶会(1,187人) 特別展「国宝聚光院の襖絵」千住真理子とベルリン室内管弦楽団コンサート(783人)、茶会(1,507人) 特別展「南禅寺展」茶会(564人) 博物館に初もうで 和太鼓演奏(400人)、猿まわし(380人)、箏曲演奏(400人)、獅子舞(500人)</p> <p>(3) - 2 友の会の活動</p> <p>(1) 友の会制度の改革 平成14年度までの旧「友の会」を、観覧の利便性を重視した「パスポート会員」(一般・学生)にリニューアルするとともに、より博物館に親しんでいただくことを目的とした新「友の会」制度を設立した。 また、郵便振替による申込も開始した 会員数 友の会会員777人 パスポート会員(学生)10,076人(657人)</p> <p>(2) 「友の会」対象の事業 講演会 2回 372人 東京国立博物館友の会対象旅行会 1回 21人 その他 2ヶ月に1回の割合で博物館ニュースを送付するほか、博物館で実施されるイベントの案内や、いくつかのコンサートなどのイベントを友の会会員は割引で鑑賞できるようにするなど、友の会会員へのサービスの充実に努めた。</p>	<p>こどもミュージアム、ワークショップ等</p> <p>子供向け美術鑑賞講座</p> <p>子供向け美術体験学習</p> <p>月例講演会等</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>アンケート</p>	<p>582人以上</p> <p>6回以上</p> <p>6回以上</p> <p>12回以上</p> <p>165人以上</p> <p>80%以上</p>	<p>407人以上 582人未満</p> <p>4回以上 6回未満</p> <p>4回以上 6回未満</p> <p>8回以上 12回未満</p> <p>116人以上 165人未満</p> <p>56%以上 80%未満</p>	<p>407人未満</p> <p>4回未満</p> <p>4回未満</p> <p>8回未満</p> <p>116人未満</p> <p>56%未満</p>	<p>7万9,156人</p> <p>9回</p> <p>10回</p> <p>21回</p> <p>190人</p> <p>83%</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>児童生徒を含む幅広い人々を対象とした講演会には多数が参加し、友の会活動等を計画どおり着実に実施した。</p> <p>特に、「こどもミュージアム」や美術鑑賞講座等の児童生徒を対象とした活動に積極的に取り組んだ。独立行政法人後の様々な取組は大きな進歩であり、評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 全国レベルでの教育普及事業への取組が不足していることから、外部の専門家の協力を得るなどして、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を検討することが望ましい。</p> <p>一般観覧者にも配慮しつつ、展示会場内で学校の教員が児童生徒に解説できる方策を検討することが望ましい。</p>

	記念講演会	回数	6回以上	4回以上6回未満	4回未満	12回	A	
		人数	3,151人以上	2,206人以上3,151人未満	3,151人未満	4,379人	A	
		アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	78%	B	
	夏期講座	回数	3日以上	2日	2日未満	2日	B	
		人数	337人以上	236人以上337人未満	236人未満	211人	C	
		アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	73%	B	
	公開講座	回数	8回以上	6回以上8回未満	6回未満	12回	A	
		アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	92%	A	
	列品解説	回数	40回以上	28回以上40回未満	28回未満	43回	A	
		人数	2,648人以上	1,854人以上2,648人未満	1,854人未満	3,581人	A	
	友の会会員を中心とした講演会		1回以上		1回未満	2回	A	
(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 (4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。 (4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。 (4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。 (4)-5 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。 (6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力して展覧会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。 なお、ボランティアの受け入れについては、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延人数の確保に努める。	研修等の取組み状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(4)-1 研修の取組・公私立博物館への助言等 (1) 研修等への取組み 学芸担当職員(キュレーター)研修 0件(実施中止) 教員研修 参加者数 13人(12校) オランダ文部省派遣留学生制度「日本研究プログラム」研究生の受け入れを実施 (2) 公私立博物館・美術館等に対する指導・助言 48件 (4)-3 大学等との連携 (1) 博物館実習 16人(16大学) (2) インターンシップ参加者数 9人(8大学) (3) 東京芸術大学学生ボランティア参加者数 520人 (4) 大学の授業等の見学対応(全13日 受入総数294人(13大学)) (6)-1 ボランティアの活用状況 教育普及課内にボランティア室を新設 (1) 生涯学習ボランティア(通年 参加者数144人) (2) 学生ボランティア(参加者数12人) (3) 児童・生徒ボランティア-3日間の博物館体験 小・中学生向け (夏休み期間のうち3日間 参加者数46人) 高校生向け (夏休み期間のうち3日間 参加者数35人) (4) 東京芸術大学学生ボランティア(参加者数12人) (5) 教員ボランティア(参加者数12人)	A	各種の研修、博物館実習生の受け入れ、インターンシップの受け入れ、ボランティアの活用等について取組に成果があった。 特に、ボランティアの活用については、児童生徒、学生・大学院生をはじめとして積極的に取り組んだことを高く評価する。 【より良い事業とするための意見等】 ナショナルセンターとしては、より積極的な取組が望まれる。また、学芸員、教員への研修の機会を作っていくことも望ましい。 今後は、ボランティアの活動内容の工夫を検討していくことが望ましい。			
		ボランティアの受入人数	90人以上	63人以上90人未満	63人以上	261人	A	
(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。	渉外活動の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(1) 渉外課の新設 (2) 東京国立博物館賛助会員 会員数 特別会員17団体 維持会員15団体・個人31人 会員対象の特別鑑賞会等の実施 特別展内覧会 6回 事業報告会 1回 (3) デジタル画像の有料提供事業(大日本印刷株式会社(DNP)との連携)の拡大 使用申請件数325件、利用料収入1,544万3,128円 (4) イベントの開催等による施設の有効活用(計39件) (5) 地域事業への参加協力 ・上野地区関係施設機関と共同して「国際博物館の日」記念事業を上野公園で開催した。 ・台東区主催の「上野の山文化ゾーン」の会員として講演会に協力した。 ・台東区主催の「東京国立博物館に学ぶ日本文化講座」に協力した。 ・「上野のれん会」に加入し、ポスター掲示、チラシ・割引券等の配布、広報誌「うえの」への展覧会情報掲載などを実施した。	A	渉外課を新設して一括して対応している。企業との連携による文化財のデジタル画像等の有料提供、賛助会員制度の創設、各種イベント・コンサートの開催等の渉外活動を積極的に行い、成果を上げた。 【より良い事業とするための意見等】 今後も、引き続き、積極的に行うことが望ましい。賛助会員については、その広報を行い、さらに理解を増やしていくことが望ましい。			

<p>6 その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者，身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため，各館の方針に従って展示方法，表示，動線，施設設備の工夫，整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため，観覧環境の整備プログラム等を策定し，計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的の実施し，調査結果を展示等に反映させるとともに，必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに，見やすさにも配慮する。また，音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し，入館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握，分析し，夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など，入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い，気軽に利用でき，親しまれる博物館となるよう努力する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ，各委員の協議により，評定を決定する。</p>	<p>(1)本館正面玄関のスロープに手すりを取り付けるなど来館者の意見を反映した環境の改善を行った。</p> <p>(2)ダイヤモンド展における混雑対策のシミュレーションなど展示施設等の改善に関する調査・研究を行った。</p> <p>(3)接遇研修を行うなど入館者サービスの向上に努めた。</p> <p>(4)音声ガイド・展示解説の充実 音声ガイドの貸出を4件の特別展で実施(使用料:一律500円 利用数:計9万2,199台) 常設展「日本美術の流れ」においても試験的に導入(使用料:100円 利用数:日本語4,809台 英語921台) ハイビジョンによる画像の放映は，6件の特別展において実施した。</p> <p>(5)柔軟な博物館展示活動等の展開 夜間開館の実施(夜間開館の開催日数32日，入館者数1万9,690人) ゴールデンウィーク・夏休み期間中の月曜日，1月2日の開館を実施 14年度の小・中学生に引き続き，15年度は高校生の常設展の観覧料を無料とした。 11月の第1土曜日を「留学生の日」とし，在日外国人留学生の常設展観覧料を無料とした。 東京都主催の「ウェルカムカード」(外国人観光客の割引制度)に参加 1,688人の利用 東京都主催の美術館・博物館共通入館券「ぐるっとパス」に参加 1万2,110人の利用 共催展ホームページにおける割引券の提供</p> <p>(6)ミュージアムショップ・グッズ等の充実・改善 東洋館にあるレストランを大幅に改装し，16年2月にリニューアルオープンした。 平成館ラウンジにおいても飲食可能なスペースを設けたほか，前庭にて臨時の店(お茶，和菓子提供)を設置した。 当館ウェブサイトとリンクしたミュージアムショップのサイトを12月に立ち上げ，通信販売等への対応も充実させた。 庭園(期間:春・秋)及び黒門(土・日曜日，祝・休日)を一般に開放 東京都の江戸開府400年記念事業に協力し，本館・表慶館・黒門のライトアップを行った。 法宝物館において，入館者向けの図書サービスを継続して実施</p>	<p>A</p> <p>平成14年度から導入した小・中学生の平常展料金の無料化の効果が表れてきている。また，開館日の増，柔軟な開館時間の設定，茶室の貸出し，レストラン等のサービスの改善等入館者サービスの向上に努めた。</p> <p>外国人観光客に対しても，本館2階の展示を再編して，「日本美術の流れ展」を開催するとともに，多言語による館紹介パンフレットを充実させるなど，日本文化の理解促進に貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 外国人観光客に対しても，さらに音声ガイドやボランティアによる外国語解説等のサービスを充実していくことを期待したい。 また，安く簡便に食事のできるカフェテリアの様な施設の導入の検討を行うことを期待したい。</p>
---	-----------------------	--	--	---

【京都国立博物館】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のOA化の推進</p> <p>(6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>			<p>1</p> <p>(2) 省エネルギー等(リサイクル)</p> <p>電気 使用量 2,197,157 kWh (前年度比97.5%) 料金 3,952万0,852円</p> <p>水道 使用量 21,161 m³ (前年度比100.5%) 料金 1,031万6,130円</p> <p>ガス 使用量 213,894 m (前年度比96.8%) 料金 1,181万7,055円</p> <p>紙の使用量 2,030 Kg (前年度比109.8%)</p> <p>廃棄物(一般) 25,051 Kg (前年度比124.3%)</p> <p>(産廃) 6,730 Kg (前年度比129.9%)</p> <p>(3) 施設の有効利用</p> <p>講堂の利用 67件(6,779人) (有償貸付 3件)</p> <p>茶室の利用 13件(227人) (有償貸付 13件)</p> <p>イベント(講演とコンサート)による利用 1件(276人)</p> <p>敷地の利用 3件(約130人) (有償貸付 2件)</p> <p>(4) 外部委託</p> <p>警備業務の一部、清掃、各種設備の保守業務の外部委託を実施。</p> <p>(5) OA化</p> <p>館内のLANを活用し、通知・連絡事項等を行いペーパーレス化を図った。</p> <p>(6) 一般競争入札</p> <p>一般競争入札件数 9件(契約金額 200万円以上)(14年度 7件)</p> <p>2</p> <p>(1) 評議員会・文化財修理所運営委員会・運営会議</p> <p>評議員会</p> <p>開催回数 2回</p> <p>議事内容 運営に関する重要事項を審議</p> <p>文化財保存修理所運営委員会</p> <p>開催回数 2回</p> <p>審議内容 文化財保存修理所の管理運営に関する重要事項を審議</p> <p>運営会議</p> <p>開催回数 23回</p> <p>審議内容 事業計画、列品の貸出し及びその他館の運営等を審議</p> <p>(2) 研修</p> <p>・「地震と文化財」と題しての講演会(4月23日)</p> <p>・当館産業医による職員対象の健康教育(講演)(6月13日)</p> <p>・普通救命講習会(12月8日・17日・18日・22日)</p>	<p>A</p> <p>京都国立博物館については、多くの人々が展覧会を観覧し、事業の一層の充実を図るなど、より多くの経費を必要とする中で、業務全般について一元化や省エネルギーに努力して、その結果として1%の効率化を図った。</p> <p>今後も、博物館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図る必要がある。</p> <p>外部委託については、必要な業務を精選する中で、順調に行っている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>施設の一層の有効利用を図るとともに、外部委託の推進にあたっては、貴重な文化財を管理・公開する施設であることに留意していくことが望ましい。</p>	
		<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>			<p>1.0%未満</p>

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>京都文化を中心とした美術及び考古資料の積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>	<p>文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>			<p>(1) 購入</p> <p>件数 41件(うち重要文化財 1件)</p> <p>分野別内訳 絵画7件、書籍1件、金工2件、陶磁3件、漆工1件、染織18件、考古9件</p> <p>(2) 寄贈 20件</p> <p>(3) 寄託 6,130件(うち国宝 85件、重要文化財 636件)(目標 6,000件)</p>	<p>A</p> <p>京都国立博物館の収集方針に基づき、大覚禅師筆「四十二章経」をはじめとして幅広く文化財を収集し、着実にコレクションの充実を図った。</p> <p>特に、独立行政法人制度のメリットを生かし、購入や寄贈で高い成果を上げた。また、寄託についても、博物館への高い信頼によって大きな成果を上げた。古都である京都の地域性を生かした6000件を超える寄託は評価できる。</p>	

	寄託件数	6,000件以上	4,200件以上 6,000件未満	4,200件未満	6,130件	A	【より良い事業とするための意見等】 寄贈・寄託の拡大のために、税制上の改善が望まれる。
(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。 (2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	保管の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(2)-1 温湿度 特別展示館 A 展覧会場 空調実施時間 9:00~18:00 温度 22 湿度 57~60% 注) 展覧会によって設定は異なる。 B 収蔵庫(24時間空調はしていない) 空調実施時間 9:00~17:30 冬季: 温度 18~20 湿度 56~58% 夏季: 温度 20~22 湿度 56~58% 平常展示館 A 展覧会場 空調実施時間 9:00~17:30 1階 冬季: 温度 22 湿度 58~61% 夏季: 温度 24 湿度 58~61% 2階 冬季: 温度 22 湿度 58~60% 夏季: 温度 24 湿度 58~60% B 収蔵庫(24時間空調はしていない) 空調実施時間 9:00~17:30 2階・3階 冬季: 温度 18~20 湿度 56~58% 夏季: 温度 20~22 湿度 58~60% M2階 冬季: 温度 18~20 湿度 58~60% 夏季: 温度 20~22 湿度 58~60% 地階 冬季: 温度 18~20 湿度 56~58% 夏季: 温度 20~22 湿度 56~58% 北収蔵庫(24時間空調はしていない) 空調実施時間 9:00~17:30 温度 20 湿度 60% 東収蔵庫 空調実施時間 9:00~17:30 温度 20 湿度 60% * 新築時の建材から発生するガス等を除去するため換気も行っている。 文化財保存修理所 空調実施時間 9:00~17:30 冬季: 温度 20 湿度 58~60% 夏季: 温度 22 湿度 58~60% * 修理作品、修理作業状況に応じて、個別に加湿器、むろ(湿度を保持するためのビニルハウス)等にて調整を行い、適正な環境管理を実施した。 照明 展示ケース及び収蔵庫は、専用の蛍光灯を使用 空気汚染 定期的にフィルターを交換 平常展示館: ビル管理法に基づく測定は、2ヶ月ごとに実施(温度、湿度、CO2、騒音、風速、塵埃) 防災 ・危機管理マニュアルの作成 ・自動火災報知器 24時間監視 ・消防訓練の実施 防犯 赤外線レーザー、赤外線人感センサー、テレビカメラ 24時間監視 (2)-2 保存カルテ 作成件数 112件	A	保存・修復の専門的な知識を持つ職員を配置し、温湿度や照明などに配慮した適正な保管が行われている。 また、保存カルテ作成も的確に実施されている。 【より良い事業とするための意見等】 今後は、収蔵品に関する本格的なデータベースを作成し、効率化を図っていくことが望ましい。 また、全館24時間空調を行っていない中で、保存環境を作っていく努力を続けていくことが望ましい。
	保存カルテ作成件数	100件以上	70件以上 100件未満	70件未満	112件	A	
(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。 (3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(3)-1 修理件数 絵画25件 彫刻2件 計27件 データベース 1,348件 (3)-2 修理業者への指導 ・定期的に各工房への巡回を行い、適切な指導、助言を行った。 ・(財)日本国際協力センターによる「文化財修復整備技術コース」研修会で講師として協力した。	A	緊急を要するものから計画的に、修理業者を指導しながら修理を行った。また、修理データも確実に記録した。特に、須磨コレクションの中国絵画の修復などに実績を上げた。 【より良い事業とするための意見等】 文化財は継続的な修復が必要であることを周知することが望ましい。保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、各館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。また、保存修復関係資料を公開していくことが望ましい。
	文化財修理等のデータベース化件数	250件以上	175件以上 250件未満	175件未満	1,348件	A	
	修理件数(寄託品を含む)	10件以上	7件以上 10件未満	7件未満	27件	A	
2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。	展覧会の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 常設展 ・開館期間 15年4月1日~16年3月31日(307日間 常設展示のみの開催期間121日) ・陳列替回数 延べ57回 ・陳列品総件数 1,648件	A	京都国立博物館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、「空海と高野山」など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、国内外に優れた美術作品

<p>(1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p>(東京国立博物館) 年3～5回程度</p> <p>(京都国立博物館) 年2～3回程度</p> <p>(奈良国立博物館) 年2～3回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度)</p> <p>(1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公私立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度)</p> <p>なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>				<p>・特別陳列 8件</p> <p>(2) 特別展・共催展 4回 空海と高野山 アート オブ スター・ウォーズ 金色のかざり - 金属工芸にみる日本美 - アート オブ スター・ウォーズ PART 2</p> <p>(3) 入館者数 57万8,553人(目標 30万人)</p>		<p>を鑑賞する機会を与えた地方巡回展・海外交流展など様々な内容のものをバランス良く行った。</p> <p>また、目標の入館者数約30万人を超える約58万人が観覧している。若い層の入館も多くあり、新しい観客層の開拓に繋がったが、今後は、京都国立博物館の特色をいかした企画で、本来の分野における若い層の開拓の努力をしていくことが望ましい。</p>	
	入館者数	300,000人以上	210,000人以上 300,000人未満	210,000人未満	57万8,553人	A	
	常設展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(1) 開会期間 15年4月1日～16年3月31日(307日間) 常設展のみの開催期間 121日間 (2) 会場 平常展示館 1階, 2階 (3) 陳列品総件数 2,032件(うち国宝 57件, 重要文化財 272件) (4) 陳列替回数 57回 (5) 入場料金 大人420円(210円), 大・高生130円(70円), 中・小学生 無料 *()内は、団体 (6) 特別陳列 8件 (7) アンケート調査 調査期間 15年4月1日～16年3月31日 調査方法 記入方式 アンケート回収数 1,012件 アンケート結果 ・良い 72%・普通 19%・悪い 9%			A	<p>京都国立博物館の方針に基づいて体系的に収集した約1万2千点の収蔵品(寄託を含む)を、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。また、入館者に楽しんでもらえるよう57回の展示替えや「新選組」等の特集展示を積極的に行うなど工夫をこらし、入館者を着実に増やした。今後とも、多くの国民に展示を観覧してもらえるよう、効果的な広報を検討することが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 京都という地域性を生かした展示や効果的な照明などを工夫することが望ましい。</p>
	陳列替数	50回以上	35回以上 50回未満	35回未満	57回	A	
陳列件数	2,000件以上	1,400件以上 2,000件未満	1,400件未満	2,032件	A		
共催展 「弘法大師入唐1200年 記念 空海と高野山」 展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(1)開会期間 15年4月15日～5月25日 (2)会場 特別展示館 (3)主催 京都国立博物館, 高野山真言宗総本山金剛峯寺, 財団法人高野山文化財保存会, NHK京都放送局, NHKきんきメディアプラン (4)陳列品総件数 154件(うち国宝21件, 重要文化財100件) (5)入場料金 大人1,300円(1,000円), 大・高生900円(600円), 中・小学生400円(200円) *()内は、団体 (6)展覧会の内容 弘法大師入唐1200年を記念して、高野山の文化財を展示 (7)講演会等 関連土曜講座6回 (8)アンケート回収数 4,850件 アンケート結果 ・良い93%・普通4%・悪い3% (9)その他 混雑時には、入場整理券を発行し、待ち時間の緩和を図った。			A	<p>「山の正倉院」と呼ばれる高野山の普段公開されることの少ない文化財を展示したもので、優れた内容のものであった。入館者数も目標を大幅に上回る約24万人が観覧した。アンケートでも93%が良かったと回答している。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 来館者への対応の面や危機管理のためにも目標入館者数の設定の方法について検討することが望ましい。</p>	
入館者数	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	23万7,684人	A		
共催展 「アートオブスター・ ウォーズ」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(1) 開会期間 15年6月24日～8月31日 (2) 会場 特別展示館 (3) 主催 京都国立博物館, シーボルト財団 (4) 陳列品総件数 218件 (5) 入場料金 大人1,400円(1,100円), 大・高生1,000円(600円), 中・小学生400円(200円) *()内は、団体 (6) 展覧会の内容 実際に映画の撮影で使用された模型, スケッチ, マット・ペインティング, 衣裳など, エピソード ・ ・ で用いられた内から200点を厳選して展示 (7) 講演会等 3回 (8) アンケート回収数 7,971件 アンケート結果 ・良い93%・普通4%・悪い3%			A	<p>新たな観客層として若年層を開拓するという目的は評価できる。また、入館者数も目標の約3倍あり、アンケートでも93%が良かったと回答している。しかしこのような企画の場合、国立博物館としての学術的なアプローチについて十分な検討をすることが必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 来館者への対応の面や危機管理のためにも、目標入館者数の設定の方法等について検討することが望ましい。また、今後とも、京都国立博物館としての学術的なアプローチの在り方について検討することが望ましい。</p>	
入館者数	40,000人以上	28,000人以上 40,000人未満	28,000人未満	12万0,682人	A		
特別展 「金色のかざりー金属 工芸にみる日本美」 展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(1) 開会期間 16年1月10日～3月7日 (2) 会場 特別展示館 (3) 主催 京都国立博物館, シーボルト財団 (4) 陳列品総件数 220件 (5) 入場料金 大人1,400円(1,100円), 大・高生1,000円(600円), 中・小学生400円(200円) *()内は、団体 (6) 展覧会の内容 撮影で実際に使用されたエピソード (ファントムメナス)・ (クローンの攻撃) から厳選されたコレクションを展示 (7) 講演会等 関連土曜講座1回 英が特別鑑賞会7回			A	<p>金工をはじめとする工芸と絵画・彫刻などで日本美術の装飾性について展示しており充実した内容であった。入館者数も目標を上回り、アンケートでも95%が良かったと答えている。</p>	

<p>(8) アンケート回収数 3,070件 アンケート結果 ・良い90%・普通6%・悪い4%</p>	<p>入館者数</p>	<p>20,000人以上</p>	<p>14,000人以上 20,000人未満</p>	<p>14,000人未満</p>	<p>2万7,279人</p>	<p>A</p>	<p>新たな観客として若年層を開拓するという目的は評価できるが、特別展の回数に限られている中で、年間に2回実施する企画であるが、検討が必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 企画を2度にわたる場合、規模や内容がふさわしいものであるか、十分に検討することが望ましい。</p>
<p>(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。 (2)-2 国立博物館及び公立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。(年間5件程度)</p>	<p>貸与・特別観覧の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(2)-1 貸与・特別観覧の件数 貸与 229件 特別観覧 826件</p>	<p>(2)-1 貸与・特別観覧の件数 貸与 229件 特別観覧 826件</p>	<p>A</p>	<p>公私立の博物館等からの要望等に対して応えるものなので、必ずしもその数をもって評価の対象にはなじまないが、広く文化財の貸与や特別観覧を行い、特に、特別観覧については広く国民へ文化財を公開することに貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 京都国立博物館における文化財の保管状態や展示計画等に留意しつつ、貸与要望の主旨を考慮しながら、今後とも幅広く応えることが望ましい。 また、国有財産の使用料に準拠している特別観覧の料金について、使用者やその目的等を勘案して、商業利用等については、提供するサービスに見合った適切な使用料を検討していくことが望ましい。</p>
<p>3 調査研究 (1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示、教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。 (東京国立博物館) 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。 法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。 館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした文化財の調査研究を計画的に実施する。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。 修復文化財に関する調査研究を実施する。 (奈良国立博物館) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。 仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。 (1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1)-1 調査研究 社寺の調査研究 近畿社寺文化財の調査研究 建仁寺塔頭(六道珍皇寺、興雲庵)に所蔵される文化財約100点を網羅的に調査 展覧会のための調査研究 特別展・特別陳列で借用した文化財について基礎的データを収集し、併せて写真撮影を行った。展示候補選定のための基礎資料の収集と、目録作成用の写真撮影を行った。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究 (財)仏教美術研究上野記念財団の研究助成で、上記課題に関する調査及び資料の収集・整備を行い「図像寛成」の刊行並びに研究発表と座談会を開催した。 科学研究費補助金による調査研究 A 中尊寺経を中心とした平安時代の装飾経に関する総合的研究 B 漢字の古写本にみる書式の定型化と初期の印刷物の図様および版式に関する調査研究 C 近世日本と中国・東南アジア・琉球で出土・伝世した工芸品に関する製作技法の比較研究 D 難波分類に基づく銅鐸出土地名表の作成 保存・修理に関する調査研究 修復文化財に関する調査研究 (1)-2 客員研究員等の招聘実績 5人</p>	<p>(1)-1 調査研究 社寺の調査研究 近畿社寺文化財の調査研究 建仁寺塔頭(六道珍皇寺、興雲庵)に所蔵される文化財約100点を網羅的に調査 展覧会のための調査研究 特別展・特別陳列で借用した文化財について基礎的データを収集し、併せて写真撮影を行った。展示候補選定のための基礎資料の収集と、目録作成用の写真撮影を行った。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究 (財)仏教美術研究上野記念財団の研究助成で、上記課題に関する調査及び資料の収集・整備を行い「図像寛成」の刊行並びに研究発表と座談会を開催した。 科学研究費補助金による調査研究 A 中尊寺経を中心とした平安時代の装飾経に関する総合的研究 B 漢字の古写本にみる書式の定型化と初期の印刷物の図様および版式に関する調査研究 C 近世日本と中国・東南アジア・琉球で出土・伝世した工芸品に関する製作技法の比較研究 D 難波分類に基づく銅鐸出土地名表の作成 保存・修理に関する調査研究 修復文化財に関する調査研究 (1)-2 客員研究員等の招聘実績 5人</p>	<p>A</p>	<p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に進められ、文化財の収集、展覧会及び図録の刊行等に成果を上げた。 その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。 また、客員研究員の招へいについて力を入れたことを評価する。特に、建仁寺や神仏の思想交流等の調査研究について評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 調査によって得られた結果は、データベース化して資料として積極的に公開し、学会等にも発表していくことが望ましい。今後は、海外の研究者との交流も積極的に進めていくことが望ましい。</p>

<p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>客員研究員招聘人数</p>	<p>4人以上</p>	<p>3人</p>	<p>3人未満</p>	<p>5人</p>	<p>A</p>	
	<p>海外研究者招聘人数</p>	<p>5人以上</p>	<p>4人以上 5人未満</p>	<p>4人未満</p>	<p>0人</p>	<p>C</p>	
	<p>研究員派遣</p>	<p>2人以上</p>	<p>1人</p>	<p>1人未満</p>	<p>5人</p>	<p>A</p>	
<p>4 教育普及 (1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。 (1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。 (3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。 (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、3館共同による広報体制の在り方について検討を行う。 (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。 (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。 また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>博物館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1) - 1 資料の収集及び公開 収集件数 図書 1,833件 写真原板 4,284枚 公開場所 平常展示館ロビーのレファレンス・コーナーにおいて美術図書を公開</p> <p>(1) - 2 デジタル化の状況 収蔵品のデジタル高精細画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開 収蔵品のうち国宝については、5ヶ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像として平常展示館ロビーにて公開</p> <p>(5) - 1 広報活動の状況 インターネットを活用した情報提供、概要・年報・各展覧会目録の刊行、博物館だより、News Letter及び年度の催物案内を発行 ホームページでの展覧会情報、収蔵品カタログの情報量を増やすとともに研究紀要「学叢」をホームページで公開</p> <p>(5) - 2 ホームページのアクセス件数 680,652件</p>	<p>A</p>	<p>資料の収集・公開、各種広報誌の一層の充実、収蔵品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。 また、館のホームページは、展覧会の情報等について視覚的にも充実を図り、アクセス件数を伸ばした。 京都国立博物館の全ての国宝を高精細画像でデジタル化し、館内及びホームページで公開した。引き続きの取組を期待したい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 より多くの国民が京都国立博物館を利用するように、館の広報を積極的に行っていくことが望ましい。 収蔵品のデジタル化やその公開について、より一層の取組が望まれる。また、将来的には、国立博物館の図書室はNACSIS 図書館所蔵検索システムへの参加を図ることが望ましい。 HPのデザイン・内容は国立博物館各館で連携をはかるなど改善を行うことが望ましい。</p>		
	<p>情報及び資料の収集</p>	<p>6,000件以上</p>	<p>4,200件以上 6,000件未満</p>	<p>4,200件未満</p>	<p>4,284件</p>	<p>B</p>	
	<p>博物館だより出版件数</p>	<p>4回以上</p>	<p>3回</p>	<p>3回未満</p>	<p>4回</p>	<p>A</p>	
	<p>収蔵品等のデジタル化件数</p>	<p>2,500件以上</p>	<p>1,750件以上 2,500件未満</p>	<p>1,750件未満</p>	<p>8,498件</p>	<p>A</p>	
	<p>ホームページのアクセス件数</p>	<p>248,304件以上</p>	<p>173,813件以上 248,304件未満</p>	<p>173,813件未満</p>	<p>680,652件</p>	<p>A</p>	
<p>(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。 また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 (東京国立博物館) 児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。 中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受入れを実施する。 (京都国立博物館) 小中学生学習プログラム等について検討、実施する。 (奈良国立博物館) 親と子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。 (3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(2) - 1 児童生徒を対象とした事業 小・中学生向け解説シート（博物館ディクショナリー）を継続して作成し、かつ、ホームページに掲載し充実 中学生の体験学習生を受入れ実施 特別陳列で展示品解説講座「少年少女博物館くらぶ」を実施（2回）</p> <p>(3) - 1 講演会等の事業 展示・収蔵品に関連する土曜講座及び夏期講座を実施 講演会 土曜講座 46回 夏期講座 3日</p> <p>(3) - 2 友の会活動 会員数 2,197人（会員には土曜講座への参加を奨励した。）</p>	<p>A</p>	<p>児童生徒を含む幅広い人々を対象とした講演会には多数が参加し、友の会活動等を計画どおり着実に実施した。 特に、「少年少女博物館くらぶ」などの児童生徒を対象とした活動に積極的に取り組んだ。独立行政法人後の様々な取組は大きな進歩であり、評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 全国レベルでの教育普及事業への取組が不足していることから、外部の専門家の協力を得るなどして、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を検討することが望ましい。 一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員が児童生徒に解説できる方策を検討することが望ましい。</p>		
	<p>小学生向け作品解説シート</p>	<p>7,500部以上</p>	<p>5,250部以上 7,500部未満</p>	<p>5,250部未満</p>	<p>18,000部</p>	<p>A</p>	
	<p>土曜講座</p>	<p>回数</p>	<p>46回以上</p>	<p>32回以上 46回未満</p>	<p>32回未満</p>	<p>46回</p>	<p>A</p>
		<p>人数</p>	<p>3,908人以上</p>	<p>2,736人以上 3,908人未満</p>	<p>2,736人未満</p>	<p>4,975人</p>	<p>A</p>

<p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p> <p>(3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。</p>	<p>アンケート</p> <p>夏期講座</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>アンケート</p>	<p>80%以上</p> <p>3日以上</p> <p>133人以上</p> <p>80%以上</p>	<p>56%以上 80%未満</p> <p>2日</p> <p>93人以上 133人未満</p> <p>56%以上 80%未満</p>	<p>56%未満</p> <p>2日未満</p> <p>93人未満</p> <p>56%未満</p>	<p>85%</p> <p>3日間</p> <p>209人</p> <p>87%</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	
<p>(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>C 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。</p> <p>(6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力して展覧会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。</p> <p>なお、ボランティアの受け入れについては、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延人数の確保に努める。</p>	<p>研修等の取組み状況</p> <p>大学生等の受入人数 (15大学35人)</p> <p>ボランティアの受入件数</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>35人以上</p> <p>16人以上</p>	<p>25人以上 35人未満</p> <p>11人以上 16人未満</p>	<p>25人未満</p> <p>11人未満</p>	<p>(4)-1 研修の取組・公私立博物館への助言等 （財）日本国際協力センターによる「文化財修復整備技術コース」の研修会に協力した。 協力した研究員数 5人 参加者数 外国人 8人 文化庁による指定文化財企画・展示セミナーに協力した。 協力した研究員数 3人 参加者数 27人 公私立博物館・美術館の展覧会の充実のために援助・助言した。（5件）</p> <p>(4)-5 大学等との連携 ・京都大学大学院人間・環境研究科の共生文明専攻歴史論講座の担当をし、また博物館実習として各大学から受け入れ 大学院生 受入数 6人 博物館実習生参加者数 16大学34人</p> <p>(6)-1 ボランティアの活用状況 京都橋女子大学との学術交流の一環として、21人を受け入れ解説ボランティア（常設展の展示解説）を実施 調査・研究補助として、4人を受け入れた。</p> <p>16大学34人</p> <p>25人</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>各種の研修、博物館実習生の受入れ、インターンシップの受け入れ、ボランティアの活用等について取組に成果があった。</p> <p>特に、ボランティアの活用に積極的に取り組んだことを評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 ナショナルセンターとしては、より積極的な取組が望まれる。また、学芸員、教員への研修の機会を作っていくことも望ましい。 今後は、ボランティアの活動内容の工夫を検討していくことが望ましい。</p>
<p>(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>			<p>(6)-2 国立博物館支援法人清風会が行う鑑賞会・見学会に協力した。また企業等と協約書などを交し、広報活動を実施 ・賛助会員（清風会会員）への協力 10件 ・京都市観光協会への協賛 1件 ・企業との協約締結 3件</p>	<p>B</p>	<p>各種イベント・コンサートの開催等の渉外活動を行い、成果をあげてきている。今後とも京都市色を強く打ち出していく必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後とも、引き続き、外部資金の導入も含めて、積極的に行うことが望ましい。 また、地域資源の有効な活用について積極的な取組を行うことが望ましい。</p>
<p>6 その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>			<p>(1)-1 高齢者・身体障害者のための施設整備等 高齢者、障害者等に配慮し、屋外トイレの改修及び特別展示館へのスロープを設置した。</p> <p>(1)-2 観覧環境の充実 百年記念館（仮称）の関連整備 ・特別展示館玄関入口に新たなハンディキャップ用スロープ及び自動ドアを設置した。また、併せて玄関の段差を解消した。 ・屋外トイレを改修した。 音声ガイド 5件 総計51,734件 夜間開館等の実施状況 共催展、特別展期間中、毎週金曜日は20時まで、その他の日は18時まで開館した。 夜間開館 開館日数 30日 入館者数 4,644人 無料観覧日（常設展） 毎月第2・第4土曜日、9月15日（敬老の日）、 11月7日（留学生の日）、11月15日・16日（留学生の日）、 3月12日～21日（伝統産業の日 着物着用者のみ）</p> <p>(1)-4 展示解説の充実 常設展示の解説の英語表記を順次実施した。 解説の字体を統一し、見やすく表示した。 「京都国立博物館庭園マップ」を作成し、屋外の展示作品や構内の建物をイラスト・写真・解説文などを用い、わかりやすく解説した。</p> <p>(2) 入館者等の要望の反映 館内に意見箱を設置し、入館者の意見を随時受け付け満足度の調査を実施し、展示等に反映した。 外部の専門家からの意見を聴取し、入館者サービスに努めた。</p> <p>(3) レストラン・ミュージアムショップの充実 来客からの声を集約し、レストランでは接客対応のレベルアップ、季節に応じたメニューの工夫、またミュージアムショップにおいては洋書を取り入れ、来館者の期待に応えられるよう改善を図った。</p>	<p>B</p>	<p>平成14年度から導入した小・中学生の平常展料金の無料化の効果が表れてきている。また、開館日の増、柔軟な開館時間の設定、茶室の貸出し、レストラン等のサービスの改善等の入館者サービスの向上に努めた。</p> <p>外国人観光客に対しても、多言語による館紹介パンフレットを充実させるなど、日本文化の理解促進に貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 外国人観光客に対しても、さらに音声ガイドやボランティアによる外国語解説等のサービスを充実していくことを期待したい。</p>

【奈良国立博物館】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的 評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のOA化の推進</p> <p>(6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>1 (1) 業務の一元化(本部)</p> <p>(2) 省エネルギー等(リサイクル)</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気 使用量 4,117,570 kWh (前年度比101.0%) 料金 5,948万7,429円 水道 使用量 17,117 m³ (前年度比90.2%) 料金 613万4,655円 ガス 使用量 521,379 m³ (前年度比115.9%) 料金 3,094万4,701円 A重油 使用量 0 L (前年度使用量 68,130 L) 一般廃棄物 排出量 3,234 kg (前年度比97.9%) 産業廃棄物 排出量 4,395 kg (前年度比298.0%) コピー用紙等使用量 687,000枚 (前年度比90.4%) <p>(3) 施設の有効利用(外部利用件数/全体利用件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講堂の利用 14件/29件 うち有償貸付 9件 茶室の利用 3件/3件 " 3件 地下回廊の利用 2件/2件 " 2件 本館の利用 2件/2件 会議室の利用 2件/2件 " 1件 敷地の利用 5件/5件 " 3件 <p>(4) 外部委託</p> <ul style="list-style-type: none"> 常設展・特別展での看視・売札・図録販売業務に係る臨時アルバイトの継続的導入 正倉院展会期中、入口から離れた場所に設置した臨時コインロッカーの管理について、隣接する臨時休憩所運営業者に委託 <p>(5) OA化</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子メール等の活用による各種通知・連絡のペーパーレス化の浸透 業務用の各種統計データ、資料のファイルサーバ上への保存による情報の共有化 職員用パソコンの機種及び基本ソフト更新によるセキュリティ機能及び処理速度の強化 <p>(6) 一般競争入札</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般競争入札件数 4件(図録印刷2件、空調設備運転管理、パソコン購入) <p>2 (1) 評議員会、文化財保存修理所運営委員会、運営会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催回数 評議員会2回、文化財保存修理所運営委員会1回、運営会議19回 議事内容 評議員会第1回(平成15年7月17日開催)・平成14年度事業評価報告について 第2回(平成16年3月15日開催)・平成15年度事業報告について 文化財保存修理所運営委員会 運営会議 展覧会反省会 <p>(2) 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 当館産業医による職員対象の健康指導(講演)の実施 法人本部主催研修(新任職員研修、接遇研修、職員啓発研修)への参加 	<p>A</p> <p>奈良国立博物館については、多くの人々が展覧会を観覧し、事業の一層の充実を図るなど、より多くの経費を必要とする中で、業務全般について一元化や省エネルギーに努力して、その結果として1%の効率化を図った。</p> <p>特に、講堂、茶室等の施設の有効利用に積極的に取り組んだ。</p> <p>今後も、博物館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図る必要がある。</p> <p>外部委託については、必要な業務を精選する中で、順調に行っている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>施設の一層の有効利用を図るとともに、外部委託の推進にあたっては、貴重な文化財を管理・公開する施設であることに留意していくことが望ましい。</p>	
		<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>			<p>1.0%未満</p>

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的 評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。</p>	<p>文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>(1) 購入 件数 15件 分野別内訳 絵画3件、彫刻2件、書跡7件、工芸品2件、考古資料1件</p> <p>(2) 寄贈 6件</p> <p>(3) 寄託 1,842件(うち国宝52件、重要文化財311件)</p>	<p>A</p> <p>奈良国立博物館の収集方針に基づき「興福寺講堂曼荼羅図」をはじめとして幅広く文化財を収集し、着実にコレクションの充実を図った。</p> <p>特に、独立行政法人制度のメリットを生かし、購入や寄贈で高い成果を上げた。ま</p>	

<p>(奈良国立博物館) 仏教美術を中心とした名品を収集する。 (1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>	<p>寄託件数</p>	<p>1,750件以上</p> <p>1,225件以上 1,750件未満</p> <p>1,225件以上</p>	<p>1,842件</p>	<p>A</p>	<p>た、寄託についても、博物館への高い信頼によって大きな成果を上げた。薬師寺、法隆寺等の地域との連携、交流を深めたことは評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 寄贈・寄託の拡大のために、税制上の改善が望まれる。</p>
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。 (2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(2)-1 保存環境の向上 文化財保存修理所の円滑な運用 文化財保存修理所の装?分野及び彫刻分野ともに活発に活動し、装?44件、彫刻11件の修理の実施を管理・指導した。 また、漆工修理については、10件の修理実施を管理・指導した。</p> <p>環境管理 A 温湿度 展示会場（本館、西新館、東新館） 空調実施時間 24時間（温度 22～25 相対湿度 60%±5%） 温度に幅があり、湿度は精密であること B 照明 展示会場において、陳列品保護のため80～100ルクスを保持した。 C 空気汚染 外気をできるだけ取り入れない方針により、空気環境測定を定期的実施、適切な環境を保持した。</p> <p>その他 収蔵庫施設の見直し ・考古資料収蔵庫の拡充 ・特別展等での借用文化財のための一時保管庫の新設 ・彫刻調査室の新設</p> <p>(2)-2 保存カルテの作成件数 彫刻部門・絵画部門 約60件</p> <p>(3) 防災・防犯 防災 ・総合的な防災マニュアルの作成 ・奈良市消防局主催の文化財防火ゼミナールへの参加 ・奈良市消防局との合同消防訓練の実施 ・奈良市消防局による館内消防設備の定期的点検の実施 ・奈良県文化財保安連絡会議（奈良県警察本部生活安全部主催）の当館での開催及び参加 防犯 奈良県警察本部主催防犯連絡会への参加</p>	<p>A</p>	<p>保存・修復の専門的な知識を持つ職員を配置し、温湿度や照明などに配慮した適正な保管が行われている。 また、保存カルテ作成も的確に実施されている。奈良市消防局文化財防災官、奈良県警文化財保安官と連携して、合同防火訓練、危機管理、防犯意識の向上を図っていることは評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、収蔵品に関する本格的なデータベースを作成し、効率化を図っていくことが望ましい。</p>
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 長期寄託品等の修理を実施する。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。 (3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(3)-1 絵画3件 工芸品2件 考古資料1件 計6件 その他（財）住友財団の助成による長期寄託品の修理 1件（彫刻） 修理記録のデータベース化を進めるために、当館文化財保存修理所からの資料提供を求め、順次整理を行っている。</p>	<p>A</p>	<p>本格的に稼働した文化財保存修理所において、緊急を要するものから計画的に、修理業者を指導しながら修理を行った。また、修理データも確実に記録したが、引き続き、着実に進めていく必要がある。 特に、文化財修理所が本格的に稼働を始めたので、十分な修理が可能となったことは評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 文化財は継続的な修復が必要であることを周知することが望ましい。保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実に、各館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。また、修理所の一般への公開や、保存修復関係資料の公開をしていくことが望ましい。</p>
<p>2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。 (1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p>	<p>展示会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1) 常設展 ・開会期間 15年4月1日～16年3月31日（313日間 常設展のみの開会期間216日） ・陳列替回数 延べ24回 ・陳列品総件数 1,212件 ・特別陳列 3回 ・親と子のギャラリー 1回 ・特集展示 7回</p> <p>(2) 特別展・共催展 4回 共催展 女性と仏教 いのりとはほほえみ（産経新聞社） 共催展 日本・インド国交樹立50周年記念 インド・マトゥラー彫刻展（NHK奈良放送局、NHKきんきメディアプラン） 共催展 日本・パキスタン国交樹立50周年記念 パキスタン・ガンダーラ彫刻展（NHK奈良放送局、NHKきんきメディアプラン） 特別展 第55回正倉院展</p> <p>(3) 海外交流展・交換展 2回 海外交流展 日韓初期仏教美術展（ニューヨーク ジャパン・ソサエティ・ギャラリー） 海外交流展 日本の仏教美術（韓国国立慶州博物館）</p>	<p>A</p>	<p>奈良国立博物館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展「女性と仏教」など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、地方にも優れた美術作品を鑑賞する機会を与えた地方巡回展など様々な内容のものをバランス良く行った。 また、目標の入館者数約28万人を超える約35万人が観覧した。子どもたちに対して、奈良国立博物館の特徴である仏教美術を理解してもらえるような取組を広く行っていることは評価できる。</p>

(東京国立博物館)
年3～5回程度
(京都国立博物館)
年2～3回程度
(奈良国立博物館)
年2～3回程度

(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
(1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度)
(1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。
(1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度)
なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。

(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

			(4) 地方巡回展 開催計画なし	
			(5) 入館者数 35万1,488人(目標 約28万人)	
入館者数	280,000人以上	196,000人以上 280,000人未満	196,000人未満	35万1,488人
常設展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年4月1日～16年3月31日(313日間) 常設展のみの開催期間 216日間 (2) 会場 本館、西新館 (3) 陳列品総件数 1,212件(=延べ件数) 本館 1,055件(うち国宝 58件、重要文化財 334件) 西新館 157件(うち国宝 24件、重要文化財 48件) (4) 陳列替回数 延べ 24回 (5) 入場料金 大人420円(210円) 高校・大学生130円(70円) 小・中学生無料 ()内は20人以上の団体料金 (6) 特別展観等 7件 (7) アンケート回収数 385枚 アンケート結果 良い92%(352件) ・普通4%(17件) ・悪い4%(16件)
陳列替数	24回以上	16回以上 24回未満	16回未満	24回
陳列件数	500件以上	350件以上 500件未満	350件未満	1,212件
共催展 「女性と仏教 いのりとほほえみ」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年4月15日～5月25日 (2) 会場 東・西新館 (3) 主催 奈良国立博物館、産経新聞社 (4) 陳列品総件数 194件(うち国宝40件、重要文化財82件) (5) 入場料金 大人830円(560円) 高校・大学生450円(250円) 小・中学生250円(130円)()内は前売り及び20人以上の団体料金 (6) 展覧会の内容 日本の仏教美術の成立と展開に女性がいかに関わったかを、宮廷の女性と仏教 浄土憧憬 法華経信仰と女性 鎌倉仏教と女性 など、9つのテーマのもとに大観した。女性が仏教をどう見たかという視点にできる限り立ち、歴史的記述に努めるとともに、仏教美術の名品を通して女性の信仰が支えた大きい役割を探る。 (7) 講演会等 公開講座 3回 ギャラリートーク 4回 シンポジウム 1回 (8) アンケート回収数 160件 アンケート結果 良い81%・普通12%・悪い6%・無回答1%
入館者数	25,000人以上	17,500人以上 25,000人未満	17,500人未満	2万6,905人
共催展 「日本・インド国交樹立50周年記念 インド・マトゥラー彫刻展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年7月1日～8月17日 (2) 会場 東新館 (3) 主催 奈良国立博物館、NHK奈良放送局、NHKきんきメディアプラン 共催 外務省 インド文化省 (4) 陳列品総件数 40件 (5) 入場料金 大人1,300円(1,100円/950円) 高校・大学生900円(800円/500円) 小・中学生400円(300円/200円)(前売り/20人以上の団体料金) (6) 展覧会の内容 仏像の作られ始めたクシャーン朝(1～3世紀)のマトゥラーの作品を中心に、それと前後する時代の代表的な作品40点を選び、インド彫刻のエネルギーに溢れた造形を紹介する。 (7) 講演会等 4回 (8) アンケート回収数 180件 アンケート結果 良い80%・普通14%・悪い4%・無回答2% (9) その他 ・学芸課教育室の監修のもとに、解説ボランティアが、観覧理解促進及び夏休みの自主学習の教材として、児童・生徒を対象とした子ども向けワークシート「ふしぎをさがそう」を作成、小・中学生の入館者全員に配布した。 ・関連行事として、インド古典舞踊「オリッシイ」の演舞を、会期中の3日間、展示室及び講堂において開催するなど話題作りを努めた。 ・会期中、会場で解説ボランティアによる作品解説を実施した。
入館者数	25,000人以上	17,500人以上 25,000人未満	17,500人未満	6万2,804人
共催展 「日本・パキスタン国交樹立50周年記念 パ	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1) 開会期間 15年7月1日～8月17日 (2) 会場 西新館 (3) 主催 奈良国立博物館、NHK奈良放送局、NHKきんきメディアプラン

奈良国立博物館の方針に基づいて体系的に収集した約3千点の収蔵品(寄託を含む)を、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。また、子どもを含め入館者に楽しんでもらえるよう24回の展示替えや「親子のギャラリー」等の特集展示を行うなど工夫をこらした。今後とも、多くの国民に展示を観覧してもらえるよう、効果的な広報を検討することが望ましい。
【より良い事業とするための意見等】
地下回廊の教育展示を充実させることが望ましい。

「女性と仏教」という新たな切り口による展示で、充実した内容であった。アンケートでも80%が良かったと回答している。シンポジウム等も充実しており評価できる。

パキスタン、ガンダーラ彫刻展と同時期に展示され、仏教美術を柱とする奈良国立博物館の企画にふさわしいものであった。入館者も目標の2.5倍あり、アンケートでも80%が良かったと回答している。
【より良い事業とするための意見等】
混雑が見込まれる会場での観覧者の対応について検討することが望ましい。

インド・マトゥラー彫刻展と同時期に展示され、仏教美術を柱とする奈良国立博物館の企画にふさわしいものであった。入館

キスタン・ガンダーラ彫刻展」				<p>共 催 外務省 パキスタン文化省</p> <p>(4) 陳列品総件数 48件</p> <p>(5) 入場料金 大人1,300円(1,100円/950円) 高校・大学生900円(800円/500円) 小・中学生400円(300円/200円)(前売り/20人以上の団体料金)</p> <p>(6) 展覧会の内容 紀元1世紀に興ったクシャー朝の時代に大きく花開いたガンダーラ美術について、パキスタン各地の博物館所蔵の厳選された名品48点を通して、ヘレニズム・ローマ文化や、西アジア世界など外来文化の摂取と受容によって成立した多様な側面と造形美を紹介する。 また、東京国立博物館の考古学調査隊が1999年にパキスタンで行った発掘調査の際に出土した作品や、それ以前の北西辺境州の遺跡調査及び仏教寺院遺跡ザールデリーの発掘調査の成果も併せて紹介する。</p> <p>(7) 講演会等 4回</p> <p>(8) アンケート回収数 180件 アンケート結果 良い80%・普通14%・悪い4%・無回答2%</p> <p>(9) その他 ・学芸課教育室の監修のもとに、解説ボランティアが、観覧理解促進及び夏休みの自主学習の教材として、児童・生徒を対象とした子ども向けワークシート「ふしぎをさがそう」を作成、小・中学生の入館者全員に配布した。 ・会期中、会場で解説ボランティアによる作品解説を実施した。</p>	A	<p>者も目標の2.5倍あり、アンケートでも80%が良かったと回答している。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 混雑が見込まれる会場での観覧者の対応について検討することが望ましい。</p>
入館者数	25,000人以上	17,500人以上、25,000人未満	17,500人未満	6万2,804人	A	
特別展「第55回正倉院展」				<p>(1) 開会期間 15年10月25日～11月10日</p> <p>(2) 会 場 東・西新館</p> <p>(3) 主 催 奈良国立博物館</p> <p>(4) 陳列品総件数 66件(うち初公開 7件)</p> <p>(5) 入場料金 大人1,000円(900円) 高校・大学生700円(600円) 小・中学生400円(300円)()内は20人以上の団体料金、及び前売り料金</p> <p>(6) 展覧会の内容 聖武天皇と光明皇后が身に置かれた品々をはじめ、東大寺で用いられた仏具や献物几・献物箱、奈良時代の衣装や佩飾品、薬物と顔料、文書類など、正倉院宝物の主要なジャンルが出陳されたが、今回は特に刺繍が施された作品や、佩飾品、薬物と顔料及びその関連品がまとまって出陳され、最近の調査研究の成果を反映した展示となった。</p> <p>(7) 講演会等 公開講座 3回</p> <p>(8) アンケート回収数 1,143件 アンケート結果 良い82%・普通10%・悪い5%・無回答3%</p> <p>(9) その他 ・会期中、解説ボランティアによる作品解説を毎日実施したほか、有志によるイベント「天平ファッションに親しもう(奈良朝服飾の復元と入館者の試着)」を実施した。 ・お茶会、各種コンサート(『よみがえる天平の調べ』『バロック音楽の夕べ』(河合文化庁長官出演)(以上主催)『雅楽の夕べ』『雅楽体験講座』(以上協力))、「着物で正倉院展を見よう」など、特別展開連行事を倍増し、憩いの場と話題作りに努めた。 ・小・中学生の観覧理解促進のため、一般の音声ガイドに加えて、子供向け音声ガイドを導入した。</p>	A	<p>平成15年度で55回を数え、国民にしっかりと定着した貴重な展覧会である。国民の関心も高く、目標を超える者が観覧した。また、コンサート、ファッションイベント、茶席など入館者を楽しませるための催しにも積極的に取り組んだ。</p>
入館者数	120,000人以上	84,000人以上、120,000人未満	84,000人未満	14万3,904人	A	
海外交流展「日韓初期仏教美術展」				<p>(1) 開会期間 15年4月9日～6月22日</p> <p>(2) 会 場 米国 ニューヨーク ジャパンソサエティギャラリー</p> <p>(3) 主 催 ジャパンソサエティ、コリアソサエティ、奈良国立博物館、韓国国立慶州博物館、国際交流基金、コリアファウンデーション</p> <p>(4) 陳列品総件数 92件(うち日本からの出品 40件(うち国宝 4件、重要文化財 23件))</p> <p>(5) 入場料金 一般：\$5.00 学生/シニア：\$3.00 会員/16歳以下の子供：無料</p> <p>(6) 展覧会の内容 日韓両国の古代文化と、初期仏教美術の展開にみられる造形的な繋がりや異なりを、日本及び韓国の6世紀から9世紀にかけての初期仏教彫刻の名品の数々と、古代寺院の瓦、舍利荘嚴具、経典などにより探る。</p> <p>(7) 講演会等 2回</p> <p>(8) その他 ・展覧会の企画及び構成(出品作品の選定及び出品交渉)、作品の保全及び取り扱い(日本国内における集荷/返還・点検・梱包/開梱、ジャパンソサエティ・ギャラリーにおける展示指導等)、展覧会カタログへの論文執筆及び解説執筆、写真提供等の面で協力を行った。 ・本展覧会は優れた展覧会として、ニューヨークタイムズ紙のThe Arts and Artists of The Yearに選出された。</p>	A	<p>海外に日本の優れた文化財を紹介するものとして有効であった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 海外での評価を収集し、日本国内で積極的に公表することが望ましい。</p>
入館者数				1万341人	-	
海外交換展「日本の仏教美術」				<p>(1) 開会期間 15年12月21日～16年2月1日</p> <p>(2) 会 場 韓国国立慶州博物館</p> <p>(3) 主 催 韓国国立慶州博物館、奈良国立博物館</p> <p>(4) 陳列品総件数 62件(うち国宝 9件、重要文化財 25件)</p> <p>(5) 入場料金 25才以上：400ウォン、24才以下：200ウォン</p> <p>(6) 展覧会の内容 飛鳥時代から平安、鎌倉時代までを中心とした、古代から中世初期までの日本の仏教美術作品の</p>	A	<p>海外に日本の優れた文化財を紹介するものとして有効であった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 海外での評価を収集し、日本国内で積極的に公表することが望ましい。</p>

			<p>精華を紹介し、日韓両文化の交流と相互の影響関係、及び日本美術の独自の展開をより深く理解する機会とする。</p> <p>(7) 講演会等 3回 (8) その他 展覧会の企画及び構成(出品作品の選定)、作品の保全及び取り扱い(点検・梱包/開梱、国立慶州博物館における展示指導等)、展覧会カタログへの論文執筆及び解説執筆、写真提供等で協力をを行った。</p>		
<p>(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。</p> <p>(2)-2 国立博物館及び公立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。(年間5件程度)</p>	<p>貸与・特別観覧の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(2)-1 貸与・特別観覧の件数 貸与 127件(目標 約120件) 特別観覧 774件(目標 約310件) (写真撮影12件、写真原板使用719件、テレビ撮影2件、模写7件、熟覧34件)</p> <p>(2)-2 考古資料相互貸与 貸与件数 2件 借用件数 8件</p>	<p>A</p>	<p>公私の博物館等からの要望等に対して応えるものなので、必ずしもその数をもって評価の対象にはなじまないが、広く文化財の貸与や特別観覧を行い、特に、特別観覧については広く国民へ文化財を公開することに貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 奈良国立博物館における文化財の保管状態や展示計画等に留意しつつ、貸与要望の主旨を考慮しながら、今後とも幅広く応えることが望ましい。 また、国有財産の使用料に準拠している特別観覧の料金について、使用者やその目的等を勘案して、商業利用等については、提供するサービスに見合った適切な使用料を検討していくことが望ましい。</p>
<p>3 調査研究</p> <p>(1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示、教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。</p> <p>(東京国立博物館) 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。 法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。 館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。</p> <p>(京都国立博物館) 京都文化を中心とした文化財の調査研究を計画的に実施する。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。 修復文化財に関する調査研究を実施する。</p> <p>(奈良国立博物館) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。 仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。</p> <p>(1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1)-1 1 収蔵品の調査研究 ・中国古代青銅器(坂本コレクション)の銘文の調査を行った。これは次年度に収蔵品目録に盛り込み、刊行する予定である。 ・天平期にさかのぼるとされる工芸品数件について、光学的調査を行った。</p> <p>2 展覧会のための調査研究 南都諸社寺に関する計画的な調査研究 ・特別陳列「談山神社の名宝」に関する集中的調査を、学芸課各部門とも夏季に実施した特別展等に関する調査研究 ・16年度開催特別展「法隆寺」に関する調査を継続的に実施した。また、海外からの出陳品に関する調査のために、研究員数名を欧米及び中国、韓国に派遣した。 ・16年度開催特別展「黄金の国・新羅 王陵の至宝」に関する調査研究のために、研究員を韓国国立慶州博物館に派遣した。 ・特別展「正倉院展」に関する調査を継続的に実施した。 仏教美術写真収集及びその調査研究 ・特別展「女性と仏教 いのりとほほえみ」における出陳品を中心とする作品について、写真資料の収集を行い、カラー1,487枚、モノクロ1,119枚の撮影を行った。</p> <p>3 科学研究費補助金による調査研究 ・6-8世紀の東アジア仏教美術と華厳思想 ・文化財情報の構造分析と情報資源の流通に関する基礎的研究-文化財情報の書誌コントロールにむけて- ・考古遺物からみる古代建築技術の総合的研究</p> <p>4 保存・修理に関する調査研究 大和古代寺院出土遺物の帝塚山大学考古学研究所との共同研究 ・中宮寺出土の古瓦類について、継続的な調査を実施しこれを終了した。次年度に報告書を刊行する予定である。</p> <p>5 その他の研究 海外所在東洋美術を対象とする調査研究 韓国国立慶州博物館、中国上海博物館、中国国家博物館(北京)等との学術交流。</p> <p>(1)-2 客員研究員等の招聘実績 3人(目標 3人) ・絵画(仏画)、染織(上代染織)、考古資料(古瓦)の部門に各々1人の客員研究員を招へいし、専門的な調査研究を依頼した。 研究員等の派遣実績 23人(延べ人数) ・中国国家博物館、上海博物館、韓国国立慶州博物館、国立扶餘博物館、国立中央博物館、スイスリートベルク美術館、米国メトロポリタン美術館等に、展覧会調査・学術交流のために研究員を派遣した。 ・文部科学省学芸員在外派遣研修制度を利用し、研究員1人を3か月間、大英博物館に派遣し、同館所蔵スタインコレクションをはじめとする東洋美術関連の作品管理・展示方法及び教育普及活動の調査を行った。</p> <p>(2) 調査研究成果の発表等 ・『鹿園雑集』第6号では論文3本、国際研究集会における研究発表2本、資料紹介3本を掲載した。 ・「韓半島の古代仏教遺物」と題した国際研究集会を3月25日に当館において開催し、国内外から約30人の参加があり、活発な討論を通して研究交流に努めた。 ・文化財修理報告書刊行のための資料収集等の調査を行った。 ・ホームページ上で文化財情報・研究情報を継続的に公開した。</p>	<p>A</p>	<p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に進められ、文化財の収集、展覧会及び図録の刊行等に成果を上げた。 その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。 また、中国、韓国の博物館との交流に努め、南都社寺等に関する計画的な調査研究を行ったことを評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 調査によって得られた結果は、データベース化して資料として積極的に公開し、学会等にも発表していくことが望ましい。今後は、海外の研究者との交流も積極的に進めていくことが望ましい。</p>
	<p>入館者数</p>		<p>10万8,754人</p>	<p>-</p>	
	<p>貸与件数</p>	<p>120件以上 84件以上120件未満 84件未満</p>	<p>127件</p>	<p>A</p>	
	<p>特別観覧の件数</p>	<p>310件以上 217件以上310件未満 217件未満</p>	<p>774件</p>	<p>A</p>	
	<p>客員研究員等招聘人数</p>	<p>3人以上 2人 2人未満</p>	<p>3人</p>	<p>A</p>	

	海外研究者招聘人数	6人以上	4人以上 6人未満	4人 未満	5人	B			
	研究員派遣	3人	2人	1人 未満	23人	A			
4 教育普及 (1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。 (1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。 (3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。 (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、3館共同による広報体制の在り方について検討を行う。 (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。 (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。 また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。	博物館に関する情報の収集及び公開の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(1)-1 資料の収集及び公開 収集件数 写真原板 7,107枚 図書 1,560冊 公開場所 仏教美術資料研究センター、西新館学習コーナー ・利用者数 283人 ・貸出件数 閲覧のみ (1)-2 デジタル化の状況 ホームページ掲載写真検索システムの個別データ追加件数 9,638件 (5)-1 広報活動の状況 収蔵品についてのデータ作成 ・文化財情報データ(9,638件)、画像ファイル(2,000件) 広報誌等の発行 ・奈良国立博物館だより(季刊)、奈良国立博物館概要(年1回)、各展覧会目録の刊行(9冊)小・中学生等に対する文化財理解の普及 ・コンピュータ画像の積極的活用 ・展覧会場に陳列作品の解説一枚刷りの配置 館蔵品(重要文化財)の詳細な画像データの蓄積とその公開調査、研究活動の実績のパネル等での公開 (5)-2 ホームページアクセス件数 721,878件	A	資料の収集・公開、各種広報誌の一層の充実、収蔵品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。 また、館のホームページは、展覧会の情報等について視覚的にも充実を図り、アクセス件数を伸ばした。 奈良国立博物館の全ての国宝を高精細画像でデジタル化し、館内及びホームページで公開した。引き続きの取組を期待したい。 【より良い事業とするための意見等】 より多くの国民が奈良国立博物館を利用するように、館の広報を積極的に行っていくことが望ましい。 収蔵品のデジタル化やその公開について、より一層の取組が望まれる。また、将来的には、国立博物館の図書室はNACSIS図書館所蔵検索システムへの参加を図ることが望ましい。 HPのデザイン・内容は国立博物館各館で連携をはかるなど改善を行うことが望ましい。				
		出版件数	4回以上	3回	3回 未満	4回	A		
		収蔵品等のデジタル化件数	3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件 未満	9,638件	A		
		ホームページのアクセス件数	180,000件以上	12,6000件以上 180,000件未満	126,000 件未満	72万1,878件	A		
(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。 また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 (東京国立博物館) 児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。 中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受け入れを実施する。 (京都国立博物館) 小中学生学習プログラム等について検討、実施する。 (奈良国立博物館) 親と子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。 (3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。 それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。	講座・講習会等の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(2)-1 児童生徒を対象とした事業 親と子の文化財教室 2回(前期4日・後期4日) 修学旅行生等を対象とした解説ボランティアによる展示作品解説及び課題学習等の質問への対応 展覧会毎に1枚もののクイズ形式ワークシートの作成 特別展「インド・マトゥラー彫刻展」「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」で、観覧理解促進及び夏休みの自主学習の教材として、子ども向けワークシート「ふしぎをさがそう」を作成、小・中学生の入館者全員に配布。 正倉院展における子供向け音声ガイドの導入 (3)-1 講演会等の事業 公開講座 12回 ギャラリートーク 15回 夏季講座 1回(3日間) (3)-2 友の会活動 会員数 2,674人(一般2,427人、学生215人、家族32人)	A	児童生徒を含む幅広い人々を対象とした講演会には多数が参加し、友の会活動等を計画どおり着実に実施した。 特に、児童生徒を対象とした活動に積極的に取り組み、「親と子の文化財教室」については、今後の教育にとっても役に立つと評価できる。独立行政法人後の様々な取組は大きな進歩であり、評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 全国レベルでの教育普及事業への取組が不足していることから、外部の専門家の協力を得るなどして、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を検討することが望ましい。 一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員が児童生徒に解説できる方策を検討することが望ましい。				
		親と子の文化財教室	300人以上	210人以上 300人未満	210人 未満	224人	B		
		特別展等 講座	回数	9回以上	6回以上 9回未満	6回 未満	12回	A	
			人数	1,000人以上	700人以上 1,000人未満	700人 未満	1,816人	A	
		夏期講座	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	86%	A	
			回数	3日以上	2日	2日 未満	3日	A	
			人数	120人以上	84人以上 120人未満	84人 未満	374人	A	
			アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	80%	A	

<p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p> <p>(3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。</p>	<p>ギャラリー トーク</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>友の会会員を中心とした講演会</p>	<p>15回以上</p> <p>350人以上</p> <p>1回以上</p>	<p>11回以上 15回未満</p> <p>350人以上 500人未満</p> <p>1回未満</p>	<p>11回未満</p> <p>350人未満</p> <p>1回未満</p>	<p>15回</p> <p>695人</p> <p>1回</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	
<p>(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(4)-5 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。</p> <p>(6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力して展覧会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。 なお、ボランティアの受け入れについては、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延人数の確保に努める。</p>	<p>研修等の取組み状況</p> <p>大学生等の受入件数 (20大学)</p> <p>放送大学の面接授業</p> <p>奈良女子大学との連携講座 (大学院生)</p> <p>ボランティアの受入件数</p>	<p>50人以上</p> <p>2回以上</p> <p>150人以上</p> <p>3人以上</p> <p>99人以上</p>	<p>35人以上 50人未満</p> <p>1回以上 2回未満</p> <p>105人以上 150人未満</p> <p>2人</p> <p>69人以上 99人未満</p>	<p>35人未満</p> <p>1回未満</p> <p>105人未満</p> <p>2人未満</p> <p>69人未満</p>	<p>(4)-2 キュレーター実務研修受入れ人数 2人</p> <p>(4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言 ・「高麗美術展」(サンフランシスコ・アジア美術館 10月18日～1月11日) ・「鑑真和上像一般公開」 (鑑真記念館(12月16日)、鹿児島県歴史資料センター(12月19日～27日))</p> <p>(4)-5 大学等との連携 博物館実習生受入れ人数等 25大学55人 放送大学の面接授業 6回実施(受講生各150人) 奈良女子大学との連携講座の開設 大学院生3人を受け入れ</p> <p>(6)-1 ボランティアの活用状況 解説ボランティア登録者数 100人 展示解説、インフォメーション、学習普及活動補助等の充実 ボランティア対象の研修の充実(年10回実施) 特別展「インド・マトゥラー彫刻展」「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」における子供向けワークシートの作成 正倉院展における天平衣装再現試着会の開催</p> <p>25大学55人</p> <p>6回</p> <p>150人</p> <p>3人</p> <p>100人</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>各種の研修、博物館実習生の受入れ、インターンシップの受け入れ、ボランティアの活用等について取組に成果があった。特に、ボランティアの活用に積極的に取り組んだことを評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 ナショナルセンターとしては、より積極的な取組が望まれる。また、学芸員、教員への研修の機会を作っていくことも望ましい。</p> <p>今後は、ボランティアの活動内容の工夫を検討していくことが望ましい。</p>
<p>(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(6)-2 渉外活動 展覧会広報に係る企業・公共交通機関等との連携 ・特別展(女性と仏教、正倉院展)、常設展(特別陳列)における新聞社の広報協力、後援 ・公共交通機関(近鉄、JR等)の広報協力、タイアップ広告、前売券の委託販売 ・地元観光連盟・観光協会等が主催する観光イベントでの展覧会広報協力 ・(財)大阪21世紀協会発行外国人向け伝統芸能紹介冊子「MEET OSAKA」への展覧会情報の継続掲載 賛助会員制度の創設 16年度から企業及び個人への募集を開始</p>	<p>B</p>	<p>各種イベント・コンサートの開催等の渉外活動を行い、成果をあげてきている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後とも、引き続き、外部資金の導入も含めて、積極的に行うことが望ましい。 また、支援団体に対し特別内覧会を行うなど、博物館活動を理解してもらうための取組を検討することが望ましい。地域資源の有効な活用について積極的な取組を行うことが望ましい。</p>
<p>6 その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1)-1 高齢者・身体障害者のための施設整備等 身障者用トイレ 3か所(東新館1, 地下回廊2) 身障者用エレベータ 3基(本館1, 東新館1, 西新館1) スロープ 2か所(本館, 西新館) 車椅子 10台 館内休憩スペースの増加及び効果的な配置</p> <p>(1)-2 観覧環境の充実 導線の改善、題箋の文字の大きさ・分量の工夫、効果的な休憩スペースの配置 館内案内チラシの作成・配布(正倉院展) 音声ガイドの導入(特別展) 26, 174台 常設展示の英語表記の充実及び中国古代青銅器コレクションの定期的・効果的な展示替の実施 児童・生徒を対象としたクイズ形式のワークシートの常時配置 解説ボランティアによる、展示室内での一般入館者及び講堂での学校等団体を対象とした作品解説 展覧会場内・・・随時(年間延べ304日)、講堂での団体申込・・・63件 特別展「インド・マトゥラー彫刻展」「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」における児童・生徒向けワークシート「ふしぎをさがそう」の作成 正倉院展におけるイベント「天平ファッションに親しもう」の開催</p>	<p>A</p>	<p>平成14年度から導入した小・中学生の平常展料金の無料化の効果が表れてきている。また、開館日の増、柔軟な開館時間の設定、茶室の貸出し、レストラン等のサービスの改善等の入館者サービスの向上に努めた。</p> <p>外国人観光客に対しても、多言語による館紹介パンフレットを充実させるなど、日本文化の理解促進に貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 外国人観光客に対しても、さらに音声ガイドやボランティアによる外国語解説等のサービスを充実していくことを期待したい。</p>

<p>気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>		<p>(1) - 3 入館者等の要望の反映 年度を通じたアンケート調査の実施と、調査結果の展示等への反映 特別展及び特別陳列に対する専門家からの展覧会評の広報誌（博物館だより）への掲載 特別展会期中関連行事の開催（呈茶席、各種コンサート等） 臨時の茶店・軽食販売所・郵便局の開設（正倉院展） 外国語版リーフレットの充実（従来の英・中・韓3か国語に、ドイツ語、フランス語を追加）</p> <p>(2) 夜間開館等の実施状況 夜間開館 開館日数35日 実施日 4月最終から11月第2の各金曜日、1月の第2月曜日の前日、2月3日、3月12日、8月15日、12月17日 入館者数 3,724人 開館日の増 開館日数 4日 実施日 ゴールデンウィーク期間中をはじめ、近隣社寺及びその他地元開催行事に合わせた休館日（月曜日） 入館者数 2,242人 開館時間の弾力化 会期中無休及び開館時間の前後拡大（正倉院展） 無料観覧日 実施日 5月5日、9月15日（常設展） （5月5日は小・中学生のみ特別展も無料） 11月1日（『留学生の日』）（常設展 外国人留学生のみ） 11月15日・16日（『関西文化の日』）（常設展）</p> <p>(3) レストラン・ミュージアムショップの充実 入館者へのアンケート調査の結果を踏まえ、メニューの改善に役立てたほか、地元観光イベント「なら燈花会」（8月6日～15日 会場の一部として博物館が協力）開催期間中、休憩所として営業時間を延長。</p> <p>その他 特別展「女性と仏教」において、地元中学、高等学校の教職員・保護者・児童生徒、近隣大学等の留学生及び解説ボランティアを対象に展覧会のモニターを依頼、展覧会や関連行事についての意見を聴取した。</p>	
---	--	--	--

【九州国立博物館（仮称）】

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>5 新たな博物館の運営に向けた取組み 法人本部に九州国立博物館（仮称）設置準備室を設置し、展示の企画・設計・展示に必要な作品収集、調査研究等の機能の整備など、開設に支障のないよう準備を推進する。</p>	<p>開館への準備状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>	<p>(1) 九州国立博物館（仮称）の設置準備 事務主幹、保存修復主幹を含む事務職員・研究職員8人を配置し、体制の充実を図り開館準備業務を進めた。</p> <p>(2) 常設展示業務 展示基本設計に基づき、展示工事を行う。 A 14年度に策定した常設展示実施設計に基づき、「九州国立博物館（仮称）常設展示プロジェクトチーム」及び個別の担当者間において、「展示テーマの具体化に対する総体的な検討」、「展示資料の借用交渉を含めた総体的な検討」、「映像ソフト、展示模型、レプリカ等の総体的な検討」及び「展示レイアウトの総体的な検討」に関する検討を行い、展示工事の準備を行った。 B 丹青社・トータルメディアのJVと展示工事の契約を締結し展示工事を発注した。 実物資料、レプリカ等の展示資料を、開館時まで集約・作製するため、これらの情報収集等を行う。 展示計画に支障がないよう資料購入、レプリカ・模型作製及び寄贈受入を行うとともに、展示実施設計に基づいて、展示資料にかかる国内外の関係機関との調整・交渉等を行った。 （購入10件 寄贈218件 レプリカ・模造3件 修理87件） A 15年度に初めて資料購入費として1億円が措置され、10件の展示資料を購入した。 B 陶磁器等で構成される高森コレクション218件の寄贈を受けた。このほか2つのコレクション寄贈について協議中である。 C 大韓民国国立中央博物館を訪問し、展示資料の借用及びレプリカの作製について交渉・調査を行い、レプリカを作製した。 D アイヌ民族資料であるイナウほか3点及び奄美大島小湊外金久出土具匙ほか4点の模型を作製した。 E 東京国立博物館から移管予定の展示資料53件を含め、87件の資料について修理を実施した。 F 中華人民共和国国家博物館を訪問し、展示資料の借用及びレプリカの作製について交渉を行った。 G ベトナム民主主義人民共和国を訪問し、映像番組作製及び交流等について交渉を行った。 H 東京国立博物館が所蔵する展示資料約1,000件に対する実態調査を実施した。 I 国内の博物館等が所蔵する展示資料に関し、各テーマ毎に延べ92カ所に対する実態調査を実施するとともに展示資料の借用交渉を行った。 J 東京国立博物館から提供を予定している資料600点について、プロの写真家による写真撮影を実施した。</p> <p>(3) 共催展の開催に向けた取組み 17年度の開館時に開館記念特別展を開催することについて文化庁、九州国立博物館（仮称）設立準備室、西日本新聞社の3者で協議し、「美の国 日本」（仮称）の開催を決定した。 A 借用交渉 総点数130点からなる出品リストを作成し、15年10月から借用交渉を開始した。</p>	<p>A</p>	<p>平成15年度は、設立準備室の職員を事務主幹など8名を配置して、体制の充実を図り、各種の開館準備を行った。平成16年3月には建物が竣工するとともに、施設整備、展示資料にかかる国内外の関係機関等との調整・交渉、開館記念特別展等の準備等については、おおむね順調に計画が進んでいると評価できる。また、東京国立博物館において開催したミニ企画展「はじめの一步展」や、国際シンポジウムの開催等の積極的な取組が評価できる。 今後も、常設展示を活性化させる教育プログラムとともに魅力的な展示の検討や、質の高い資料の収集に努めることが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後とも、開館に向けての準備を着実に進めるとともに、館の広報を各方面に広く行っていくことが望ましい。また、観光地としての地域の特性を活かした取組を期待したい。</p>		

- B 海外職員派遣
展示品借用交渉のため、中華人民共和国及び大韓民国の11機関と交渉を行った。
そのほか、電話やファックスでの交渉を行い、関係機関との連絡を密にするとともに継続的に交渉した。
- C 国内職員派遣
展示品借用交渉のため、1都2府10県の42機関と借用交渉を行った。
17年度の特別展の開催について、共催者と3回にわたり協議を行い、開催を決定した。
18年度の特別展の開催について、九州各県と協同で実施することとし、九州各県の文化財担当者からなる九州国立博物館支援協議会と3回にわたり協議を行った。
開館後の特別展についての検討を行い、2年間分の開催スケジュール案を作成した。
16年2月17日から3月28日まで、東京国立博物館において、ミニ企画展として「はじめの一步」展を開催した。
- (4) 設立準備における現状をインターネット等の媒体を通して発信し、更新に努め、広報活動の充実を図る。
14年度に開設したホームページをリニューアルするとともに、催し物・職員募集等の情報を迅速に発信した。
15年度末の建物竣工にあわせて、施設紹介パンフレットの作成準備を行った。
- (5) 博物館諸機能業務に関して開館後の事業内容を検討し、開館に向けたスケジュールを作成する。
- 管理運営業務
16年3月に建物本体が竣工予定であることから、16年度の警備業務、設備管理業務について委託契約を行った。また、移転後の事務体制や法人本部との連絡体制について検討した。
- 博物館科学（保存修復）業務
- A 建設工事の進捗状況に応じた施設設備の性能調査と保存科学的観点からの施工監理を行った。
ア) 収蔵庫内装材材の環境性能検査および施工監理を徹底して行った結果、最適な収蔵庫環境を達成した。
イ) 収蔵庫の一部に取り付けた二重窓の内外温湿度測定を行った結果、環境影響は認められなかった。
ウ) 壁付展示ケースの気密性能検査および施工監理を行い、極めて高い性能を持つエアタイトケースを達成した。
- B 総合的有害生物管理（IPM）体制の構築に向けて諸準備を行った。
ア) 外部専門家による総合的有害生物管理体制検討委員会を開催し、17年の臭化メチル製剤全廃に向けた総合的有害生物管理（IPM）体制を視野に入れた代替法の検討を行った。
イ) 有害生物回避のために、収蔵庫内装材監理、施工中の清浄化監理、環境調査を行った結果、竣工時初発薬剤燻蒸は行わないこととした。
ウ) 有害生物管理法は文化財及び環境への影響を配慮し、低酸素法等の薬剤を使用しない方法を採用することとした。
エ) 九州各県の博物館・美術館とIPM体制構築のための連携を図った。
- C 展示予定資料87件について、修理事物の選定、修理仕様の検討、施工監理を保存修復科学的観点から行った。
- D 博物館科学事業実施に向けて、16年度から段階的に整備する博物館科学関連機器類の選定、設置場所等の検討を行った。
- 教育普及・生涯学習業務
- A 九博準備室、福岡県国立博物館対策室及び外部委員からなる教育普及検討会議を設置し、5回の会議を開催した。
- B 教育普及検討会議においては、アジア文化体験エリアの活動内容および展示プランの具体案の開発と併行して、子どもや親子がアジアの文化に親しめるようなプログラムを、さまざまな試行を経て決定することを目標として検討した。
- C ボランティアの考え方や活動内容等についての検討を行い、活動開始までのスケジュールを策定した。
- D 歴史やボランティアに興味を持つ高校生を「ジュニア学芸員」として、小学生が行うワークショップの指導の手伝いや展示解説を行う「ジュニア学芸員モデル事業」を4回実施した。
- 交流業務
当館のテーマである、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」に沿った国際シンポジウムや研究交流事業等を実施した。
- A 15年度国際シンポジウムの実施
「海賊と漂流～地域間接触のさまざまなかたち～」をテーマに、10月25日（土）に福岡市において国際シンポジウムを九州国立博物館誘致推進本部、(財)九州国立博物館設置推進財団と共催で開催し、350人が参加した。
- B 歴史系学会・研究会との共催シンポジウム等
歴史系学会・研究会と4回のシンポジウム等を共催した。
- C 教職員の研修会等における九州国立博物館（仮称）の説明
九州国立博物館（仮称）の利用を学校関係者に周知するため、11回の教職員の研修会等において博物館の展示内容や機能等について説明を行った。
- D 九州国立博物館竣工記念シンポジウムの共催
九州国立博物館を支援する会等と共催で、「夢ができた、さあ九州国博へ」と題したシンポジウムを16年3月6日に開催した。
- 高度情報化業務
- A 博物館経営戦略を実現するために必要な情報システム（収蔵品管理、調査研究支援、博物館マネジメント、webコンテンツ作成システム等）の実施設計が完了した。
- B 装飾古墳壁画データベースにGISシステムを用いて、デモバージョンを作成し、企画展「はじめの一步」展でデモを行った。
- C 「対馬宗家文書画像データベース作成委員会」を立ち上げ、科学研究費補助金により、対馬宗家文書画像データベースを作成した。
- D 情報システムにおける収蔵品管理データベースの画像として、展示資料の写真撮影、デジタル化を行った。